

コロナ禍での フリーランス・会社員の意識変容調査

2020.05

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会





- **新型コロナウイルス感染拡大により87.3%のフリーランスが業務に「影響があった」と回答。**具体的には「取引先の業務自粛による取引停止（53.9%）」「自身の業務自粛（35.7%）」「客数の減少（32.4%）」といった内容であり、結果として「働く時間が減った」人が63.6%、「収入が減った」人が74.4%にのぼる。
- **フリーランスの85.8%がコロナ後も「フリーランス・パラレルキャリアとしての働き方を継続したい」と回答。**理由としては「働く時間や場所が自由だから（70.4%）」「自分の技能を十分に発揮できるから（64.8%）」「頑張り次第で収入を増やすことができるから（52.1%）」などが上位を占めた。継続したくない人は2.1%であった。
- フリーランスが「今の働き方を続けていくうえで、課題になっているもの」については、「**収入がなかなか安定しない（64.7%）」**「**社会的信用を得るのが難しい（33.6%）」**がいずれも課題として大きい**が、**コロナ前後を比較すると「**仕事がなかなか見つからない（30.0%）」**「**他人とのネットワークを広げる機会が少ない（25.8%）」**といった点を課題に挙げる人が増加した。
- **会社員パネルにおいてもコロナショック前に比べて「働く時間が減った」は40.6%、「収入が減った」は32.1%にのぼり、影響の大きさが見られる。**
- 会社員は「今の仕事や働き方の問題を解消する、または満足度を高めるための取り組み」として、「**副業（66.6%）」**「**非営利活動（55.3%）」**「**フリーランス（46.4%）」**「**起業（46.5%）」**を考えている。
- フリーランスも会社員もテレワーク活用状況がコロナ前後の収入・働く時間に影響しており、「**テレワーク活用済**」か「**未活用**」かで「**収入が減った**」と回答する割合が**いずれも20%前後差がある。**
- **会社員のテレワーク活用者は77.6%に達し、そのうち「コロナショックを機にテレワークを活用」し始めた人が41.7%にのぼる。**
- **アフターコロナの働き方については、フリーランス・会社員いずれも「時間・空間の制約からの解放」「企業の内外を自在に移動する働き方の増加」「兼業・副業・複業の一般化」といった回答が上位を占めた。**



本調査ではフリーランスの実に約9割が新型コロナウイルス感染拡大により「業務に影響があった」と回答した。また、7割以上のフリーランスが「収入が減った」と回答しており、**新型コロナウイルスの感染拡大が日本のフリーランスに広範かつ甚大な影響をおよぼしている**ことがうかがえる。

興味深いのは影響の甚大さにもかかわらず、約9割のフリーランスがコロナ後も「フリーランス・パラレルキャリアとしての働き方を継続したい」と答えている点だ。「収入が減った」人の割合は会社員の2倍以上にのぼり収入の不安定さはあるものの、「働く時間・場所の自由さ」「**自分の技能（知識や経験）を十分に発揮できる**」などのフリーランスならではの働き方はやはり魅力的で、**やりがい・生きがい**を感じている人が多いということだろう。

一方、会社員パネルでも、3割以上が「収入が減った」と回答しており、背景には新型コロナウイルス感染拡大を受けての**時短営業・休業措置**などがあると考えられる。今回のウイルスが日本経済全体に与えているダメージの大きさが見られるとともに、一概に「**会社員だから安定・安心**」とも言い切れない点は、私たちが**不確実性の高い時代**を生きていることを改めて認識させられる。

今回の調査結果で特筆すべきは**テレワークの浸透度**合いだ。フリーランスパネルでは「コロナショック前からテレワークを活用していた」人が半数以上を占め、もともとテレワーク活用度は高いのだが、会社員パネルにおいても「**コロナショックを機にテレワークを活用**」し始めた人が4割以上おり、テレワーク活用者は7割以上にのぼる。

コロナ前後の会社員の回答を比較すると、「**副業**」「**非営利活動**」「**フリーランス（個人事業主）**」「**起業**」などを考える人が増加しているが、会社員であっても突きつけられている不確実性の高さや、テレワークへの慣れや満足が影響していると考えられる。（但し、before/afterの調査方法の違いには留意が必要である）

テレワークを活用したワークスタイルはWithコロナ時代にますます一般化することが考えられる。テレワークでは働く時間・場所の自由度が高まり、ここ数年の**副業・兼業推進の流れ**もあり、**プロジェクト型のワークスタイル**が社会全体に浸透していくことだろう。**アフターコロナの時代には、雇用・非雇用にかかわらず、フリーランス・パラレルキャリア的な自律したワークスタイルを志向する人が一層増えていく**と推測される。



第1部 フリーランスパネル



<beforeコロナ>

調査期間：2019年10月23日～11月24日

調査方法：インターネット調査（フリーランス協会のメルマガ、SNSを通じた呼びかけ）

有効回答数：601名（内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 568名）

<afterコロナ>

調査期間：2020年4月22日～5月9日

調査方法：インターネット調査（フリーランス協会のメルマガ、SNSを通じた呼びかけ）

有効回答数：1723名（内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 1611名）

声聞かせて!

コロナ禍で
フリーランスの意識はどう変化している?

プロフェッショナル&パラレルキャリア
フリーランス協会

フリーランス白書2020
緊急追加調査

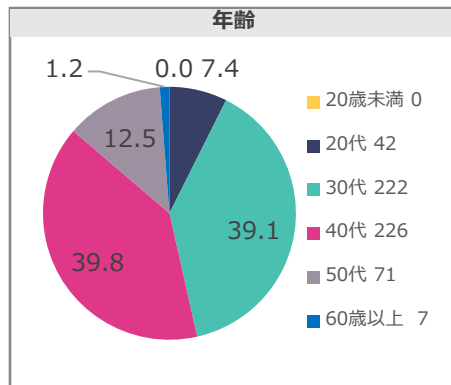
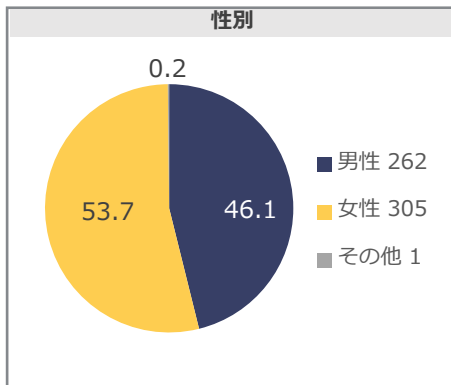
調査結果は政策提言などで広く活用していきます

調査締め切り **5/8金 23:59**

【フリーランス】回答者属性

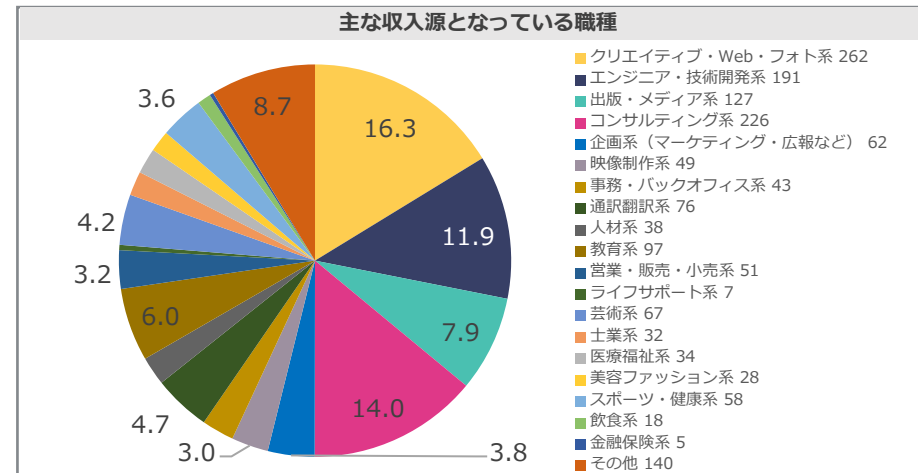
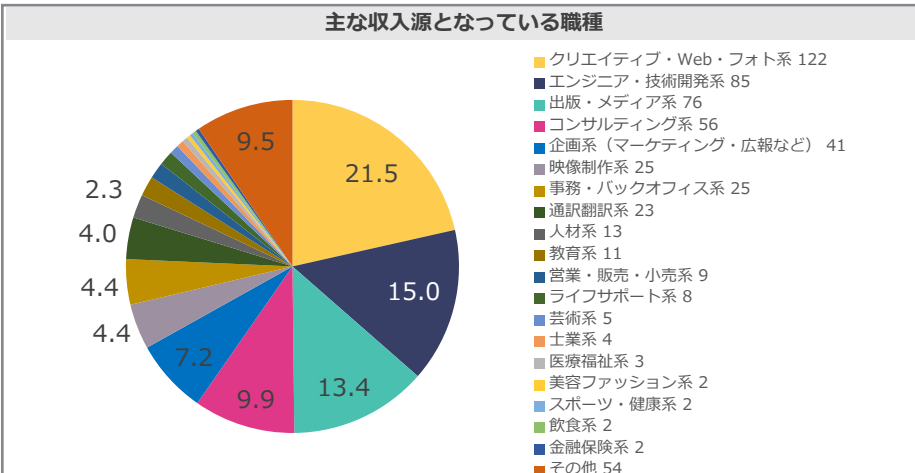
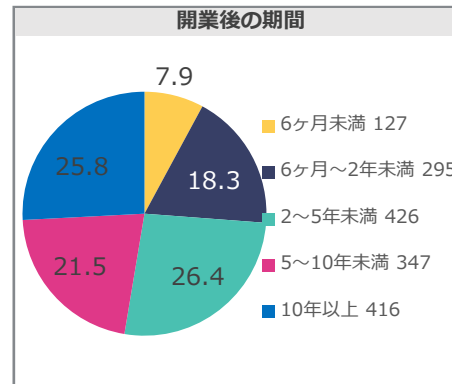
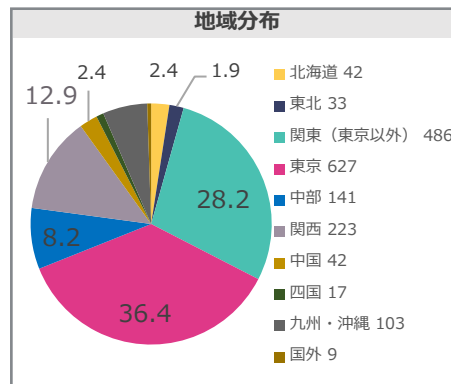
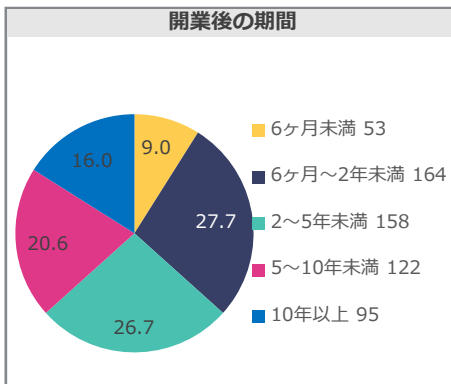
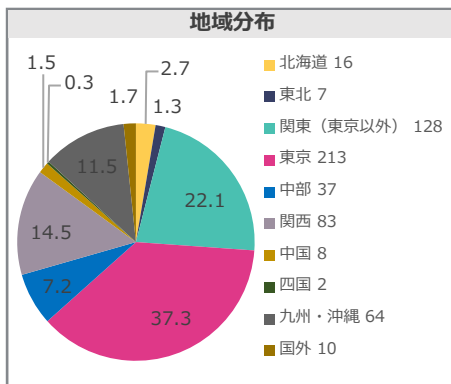
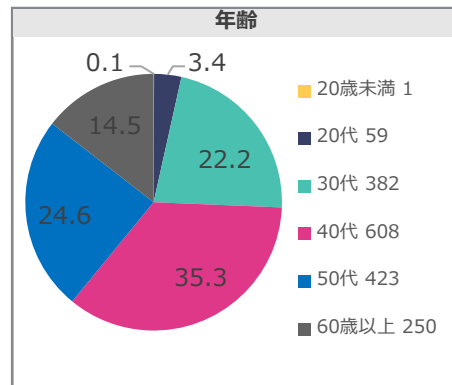
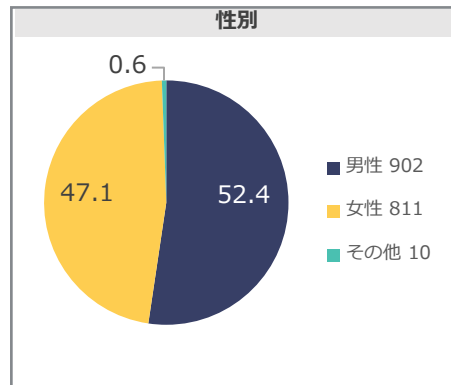


<beforeコロナ n=568>



<afterコロナ n=1611>

(単位: %)



■ 【フリーランス】 <before/after>今の働き方に対する満足度



Q5.今の働き方で、下記項目それぞれの満足度はどの程度ですか。(n=1611)

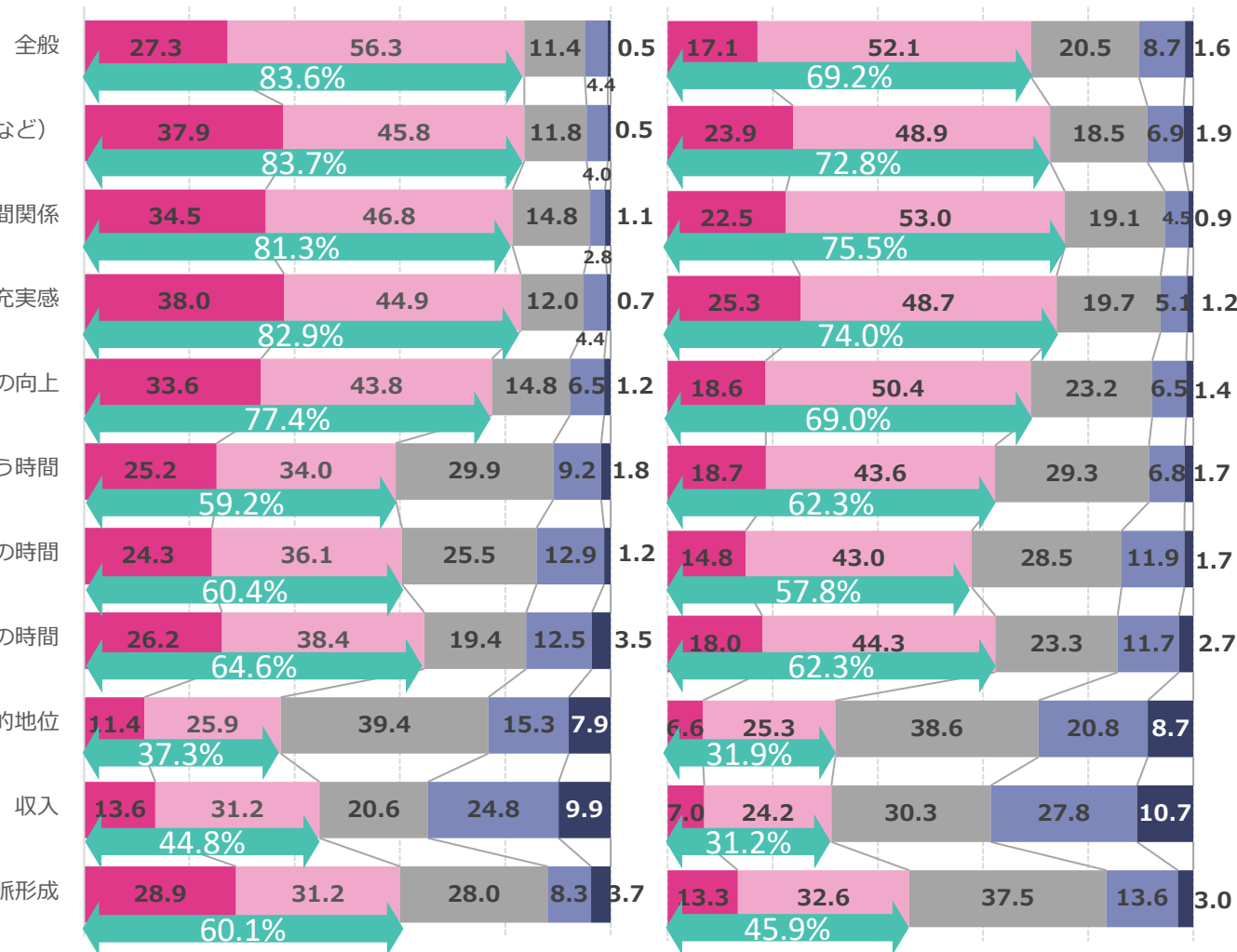
<beforeコロナ n=568>

<afterコロナ n=1611>

(単位：%)

■ 5点:非常に満足 ■ 4点:満足 ■ 3点:どちらでもない ■ 2点:不満 ■ 1点:非常に不満

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%

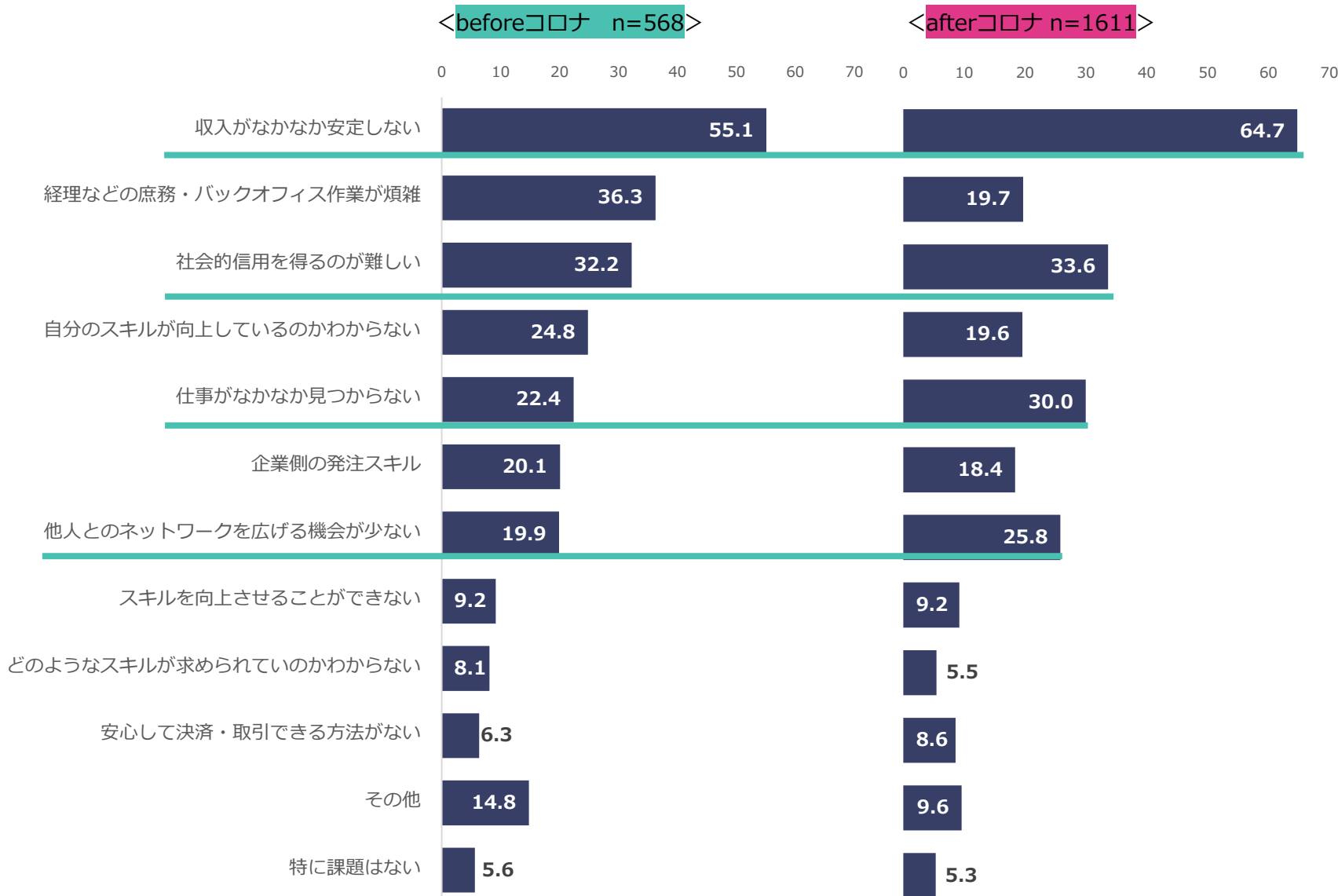


■ 【フリーランス】 <before/after>働き方の課題



Q6.あなたが今の働き方（フリーランス）を続けていくうえで、課題になっているものを教えてください。
(n=1611) ※下線部分はbeforeコロナ調査に対して5ポイント以上プラスとなっている項目。

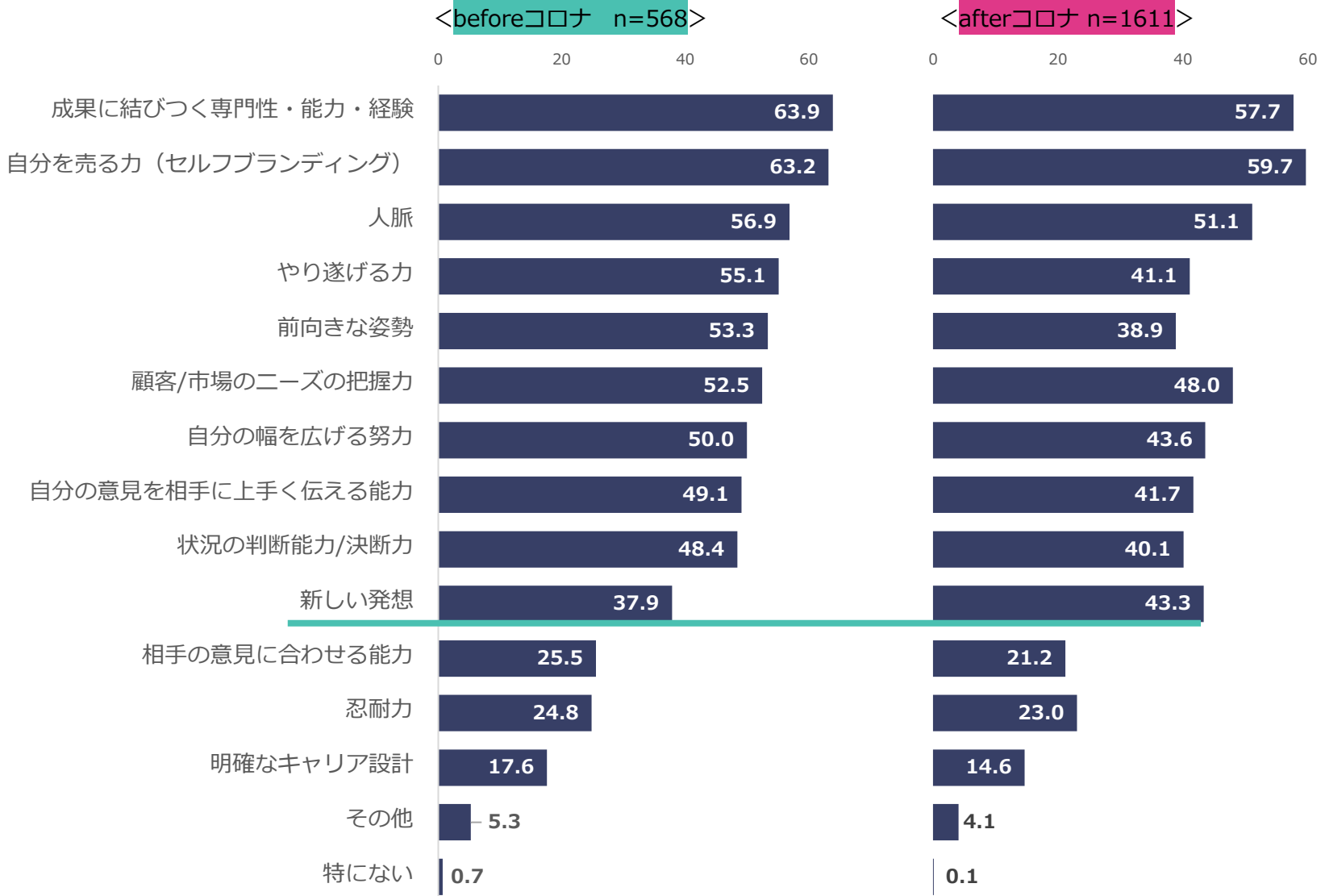
(単位：%)





Q7.現在の働き方を続ける/成功させる上で重要だと思うものをお知らせください。(n=1611) (単位：%)

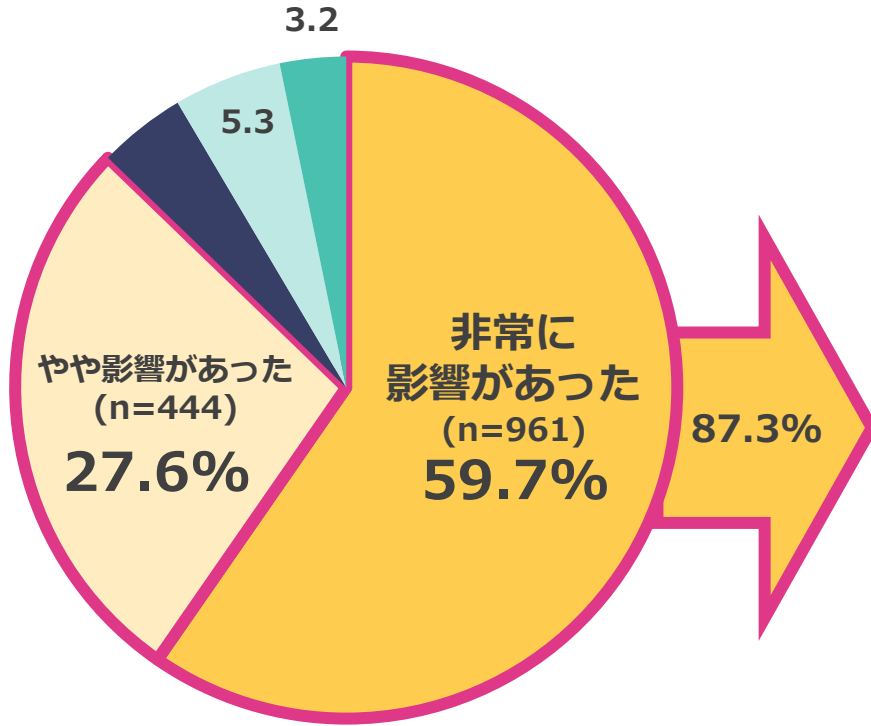
※下線部分はbeforeコロナ調査に対して5ポイント以上プラスとなっている項目。





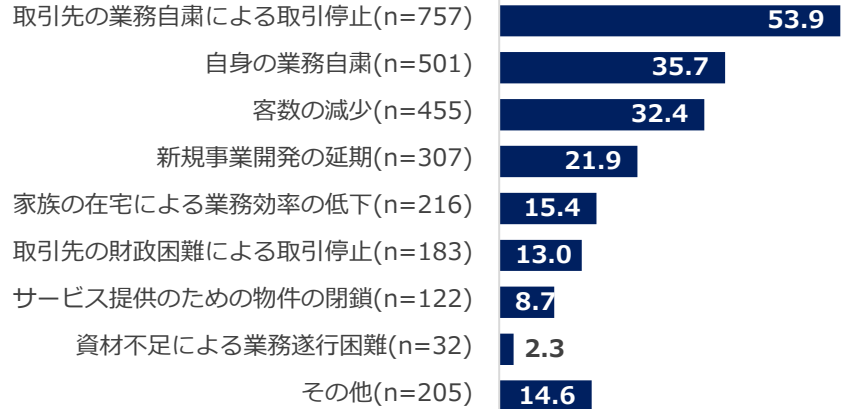
Q8.新型コロナウイルス感染拡大により、業務に影響はありましたか。(n=1611)

(単位：%)

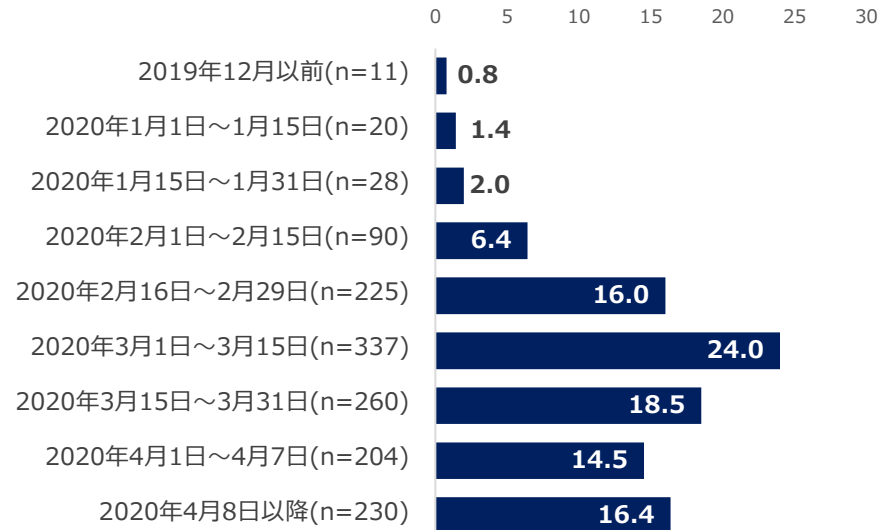


- 非常に影響があった 961
- やや影響があった 444
- どちらともいえない 69
- あまり影響はなかった 85
- まったく影響はなかった 52

Q9. <業務に非常に影響があった/やや影響があったとお答えの方> どのような影響がありましたか。(n=1405)



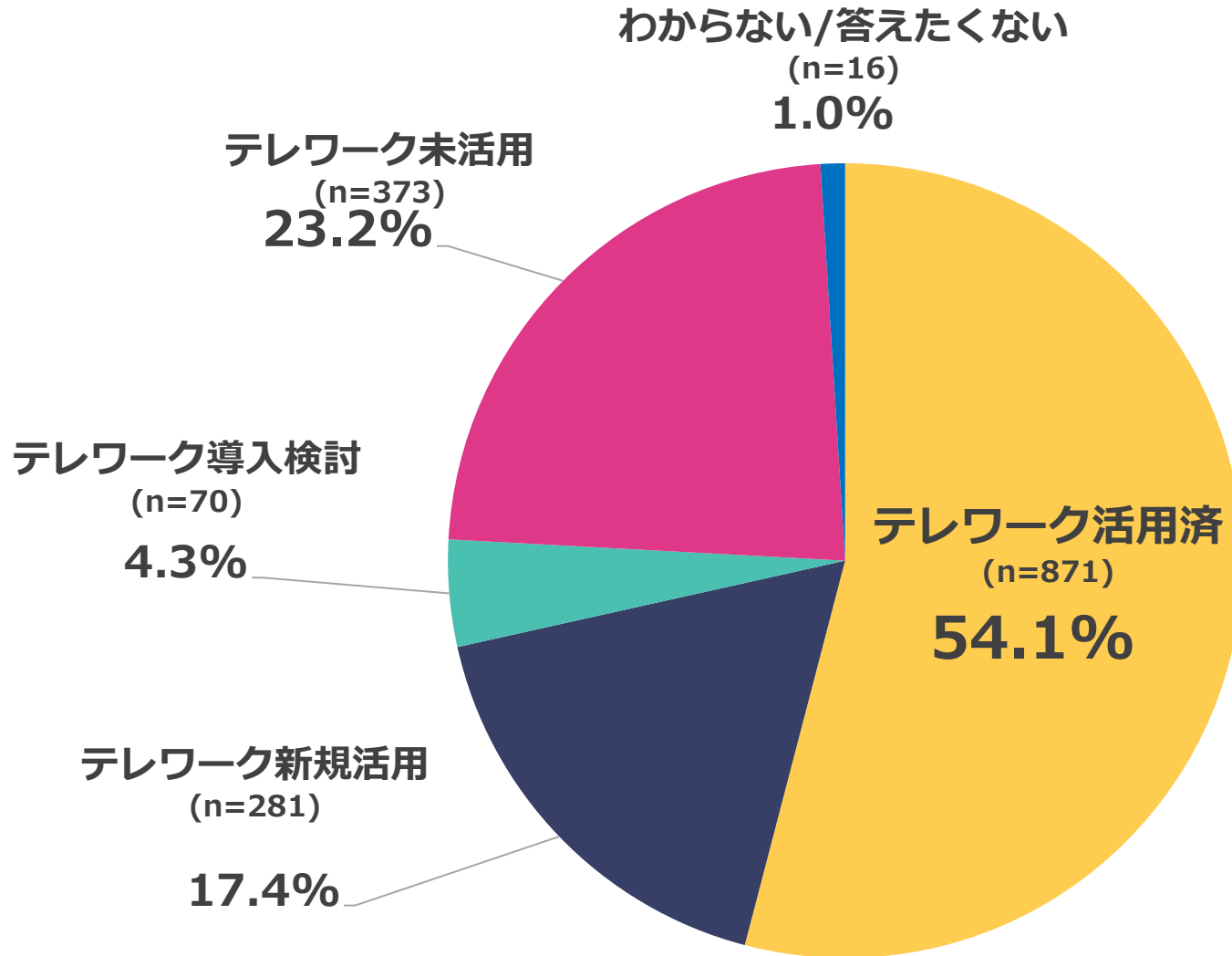
Q10. <業務に非常に影響があった/やや影響があったとお答えの方> それはいつごろから始まりましたか。(n=1405)





Q11.新型コロナウイルス感染拡大により、在宅ワーク（テレワーク）を活用しましたか。(n=1611)

(単位：%)





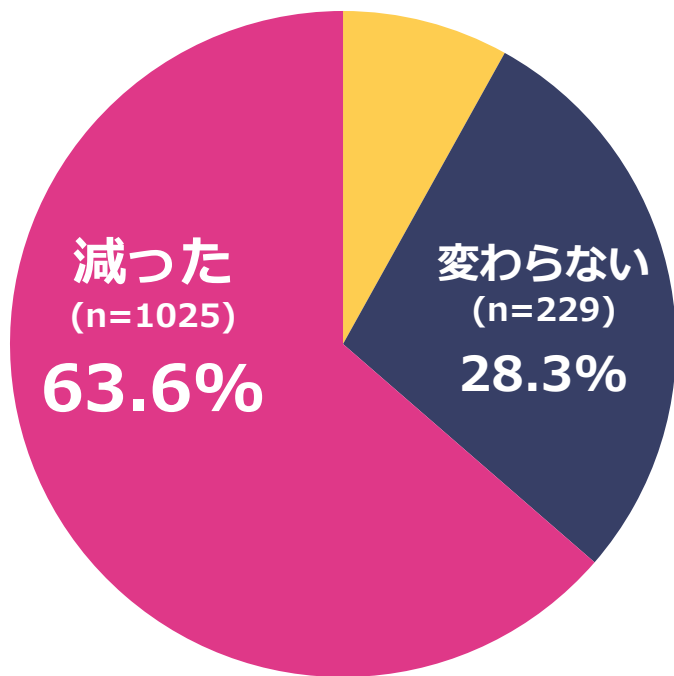
Q12.コロナショック前に比べて、働く時間は変わりましたか。(n=1611)

Q12_2.コロナショック前に比べて、収入は変わりましたか。(n=1611)

(単位：%)

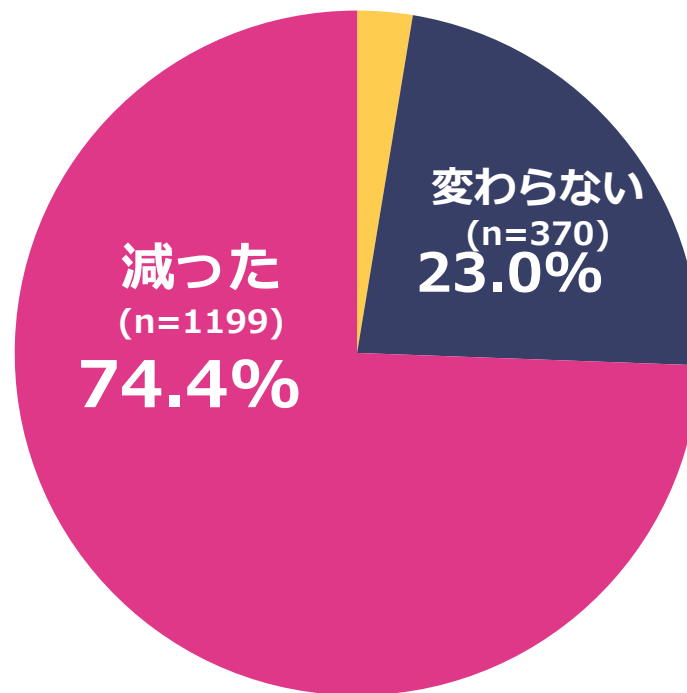
Q12.働く時間の変化

増えた
(n=130)
8.1%



Q12_2.収入の変化

増えた
(n=42)
2.6%



【フリーランス】職種×働く時間・収入の変化



【フリーランス】職種×働く時間の变化

【フリーランス】職種×収入の变化

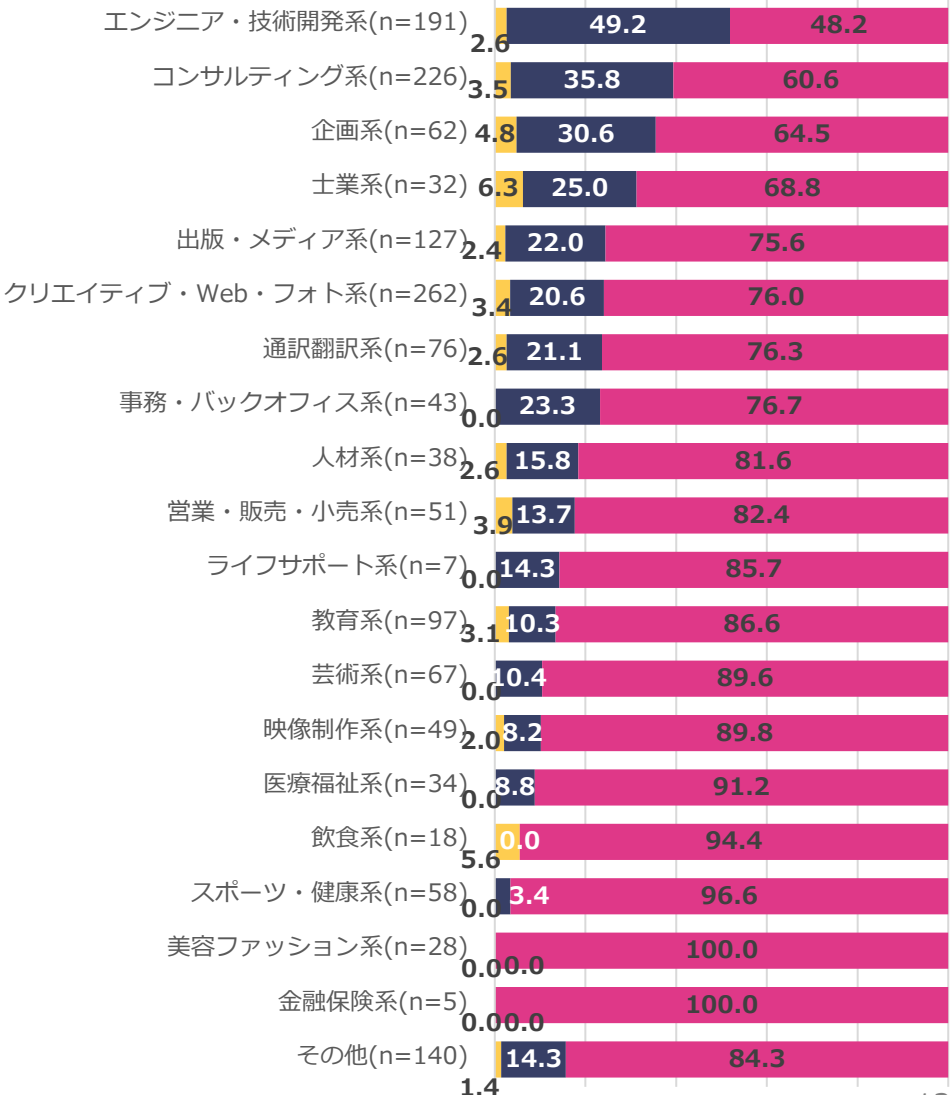
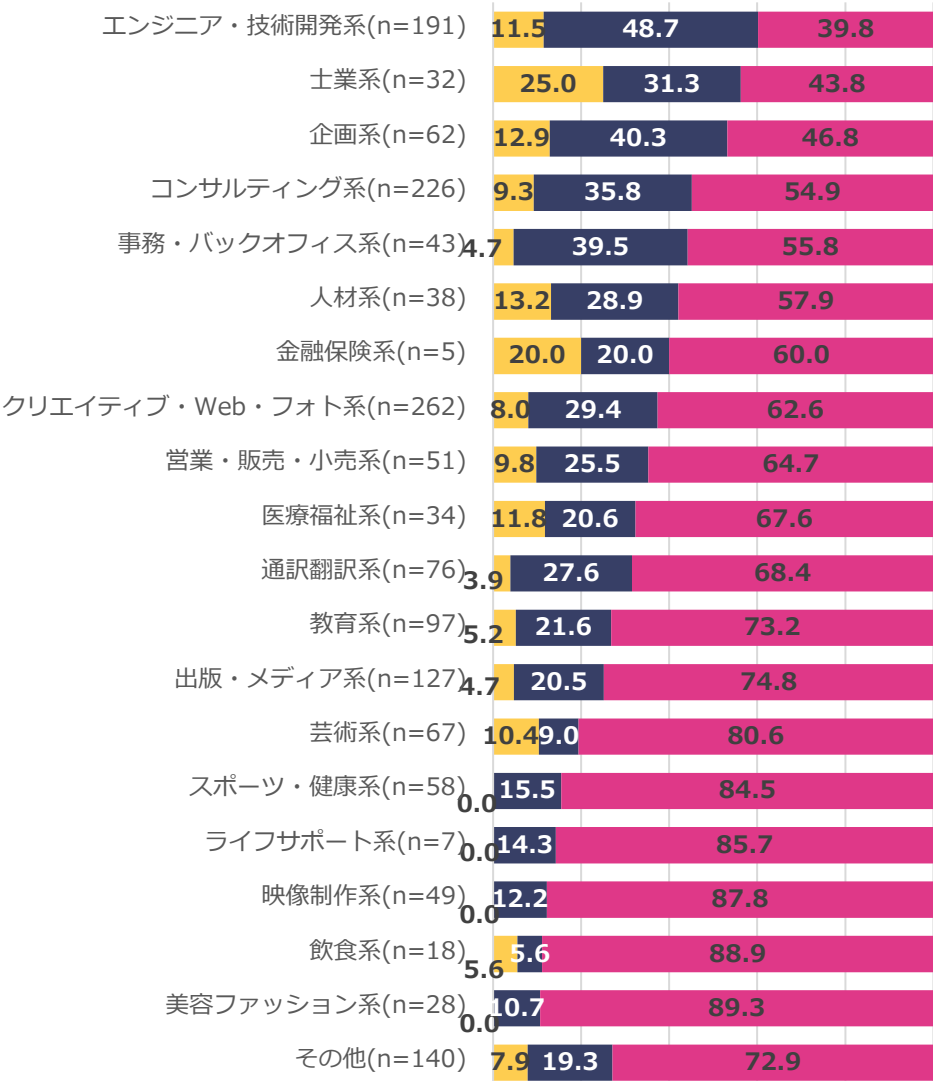
(単位：%)

■ 働く時間 (増えた) ■ 働く時間 (変わらない) ■ 働く時間 (減った)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 収入 (増えた) ■ 収入 (変わらない) ■ 収入 (減った)

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 【フリーランス】テレワーク利用状況×働く時間・収入の変化



(単位：%)

テレワーク活用状況×働く時間の変化

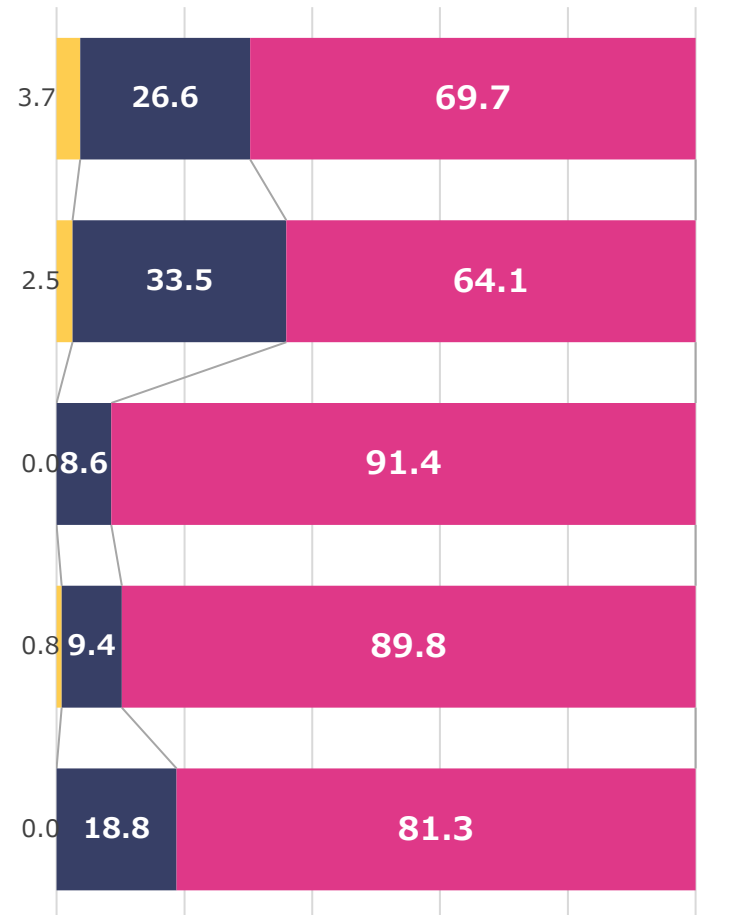
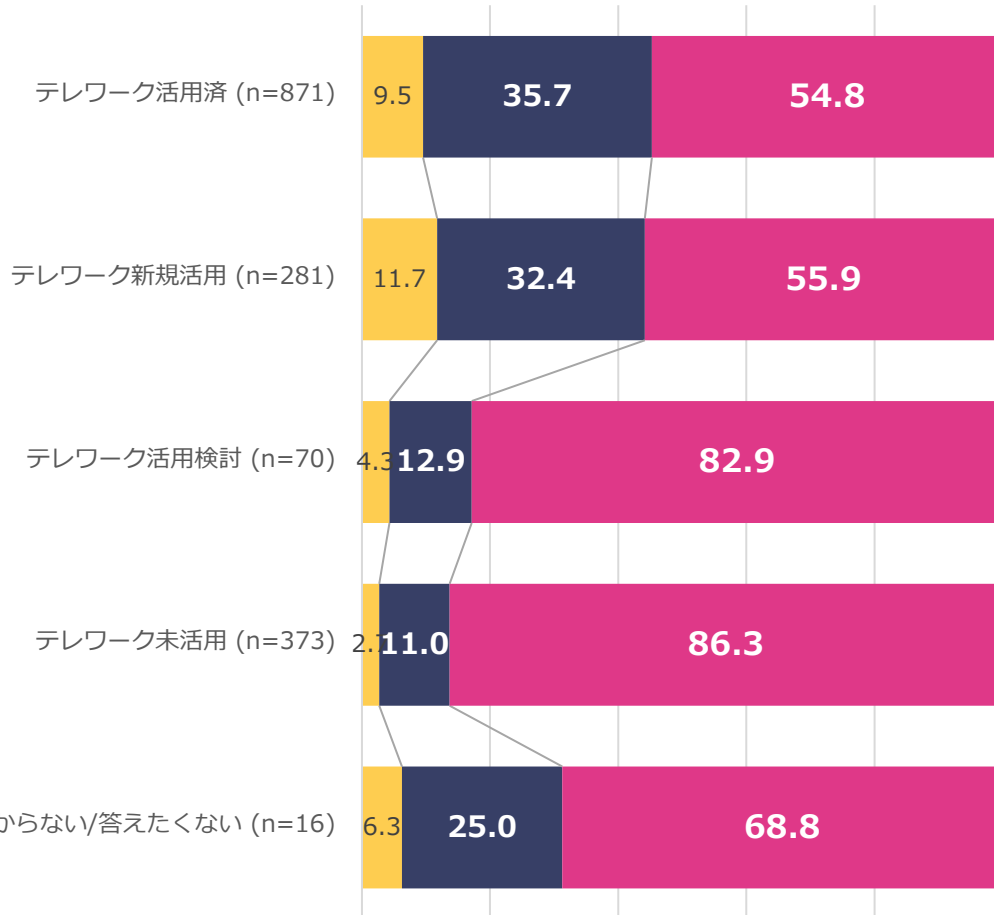
テレワーク活用状況×収入の変化

■ 増えた(n=130) ■ 変わらない(n=456) ■ 減った(n=1025)

■ 増えた(n=42) ■ 変わらない(n=370) ■ 減った(n=1199)

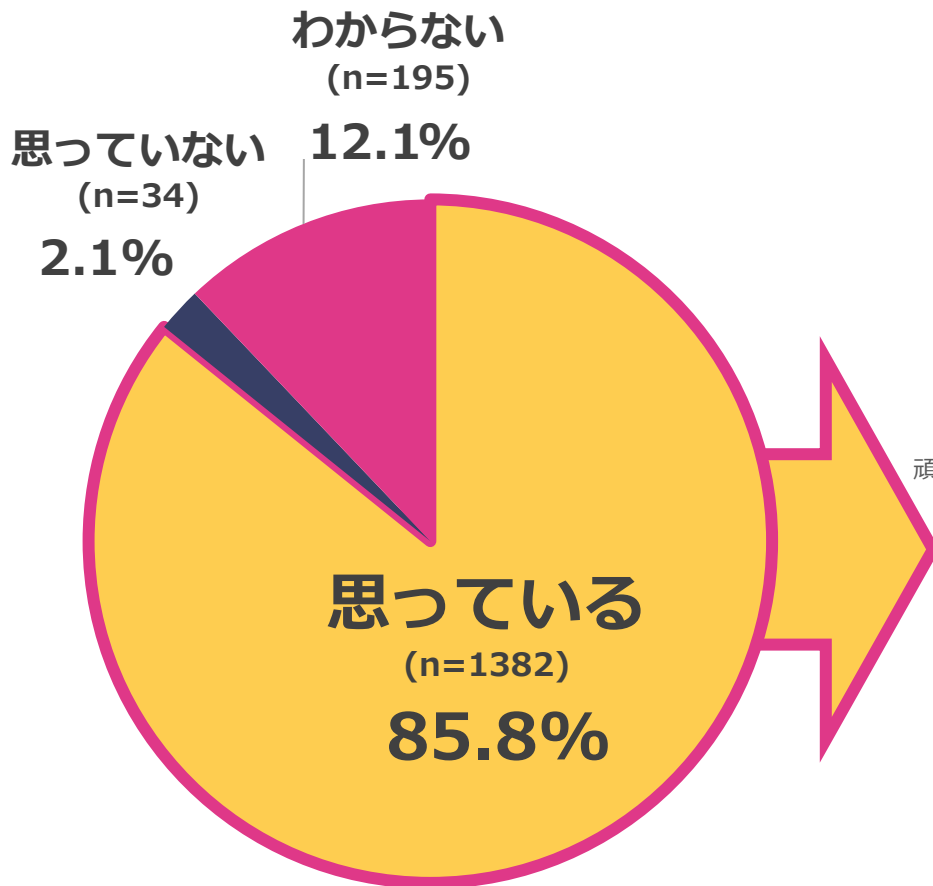
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

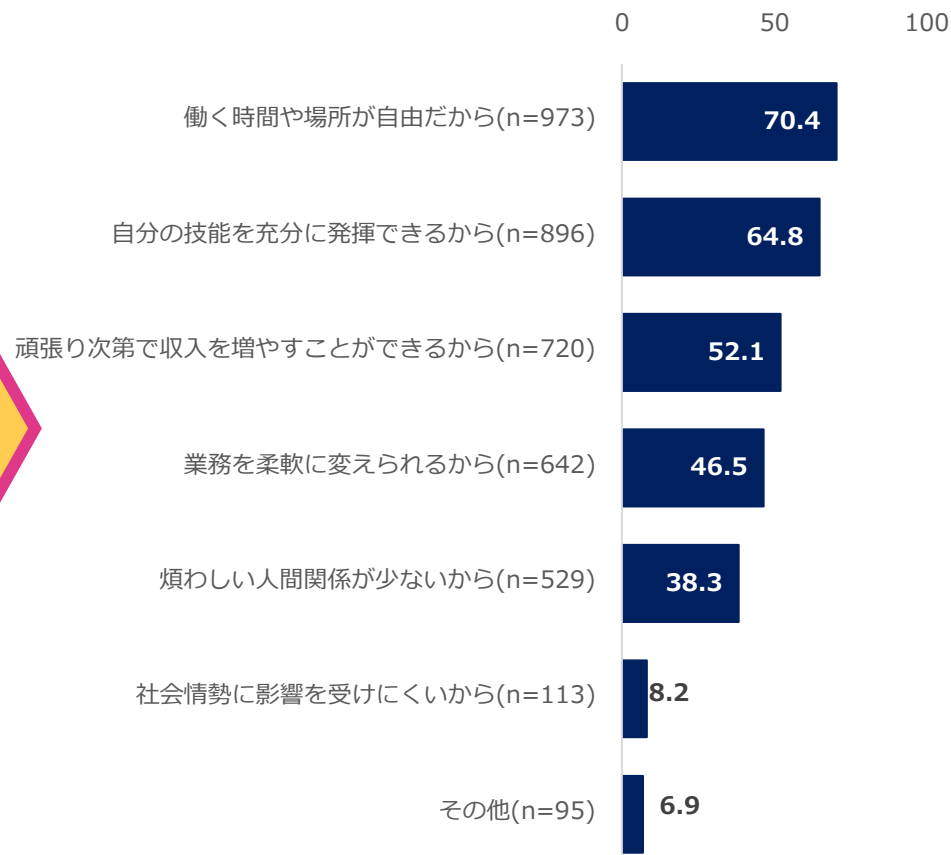




Q13.アフターコロナに向けて、フリーランス・パラレルキャリアとしての働き方を継続したいと思っていますか。(n=1611) (単位：%)

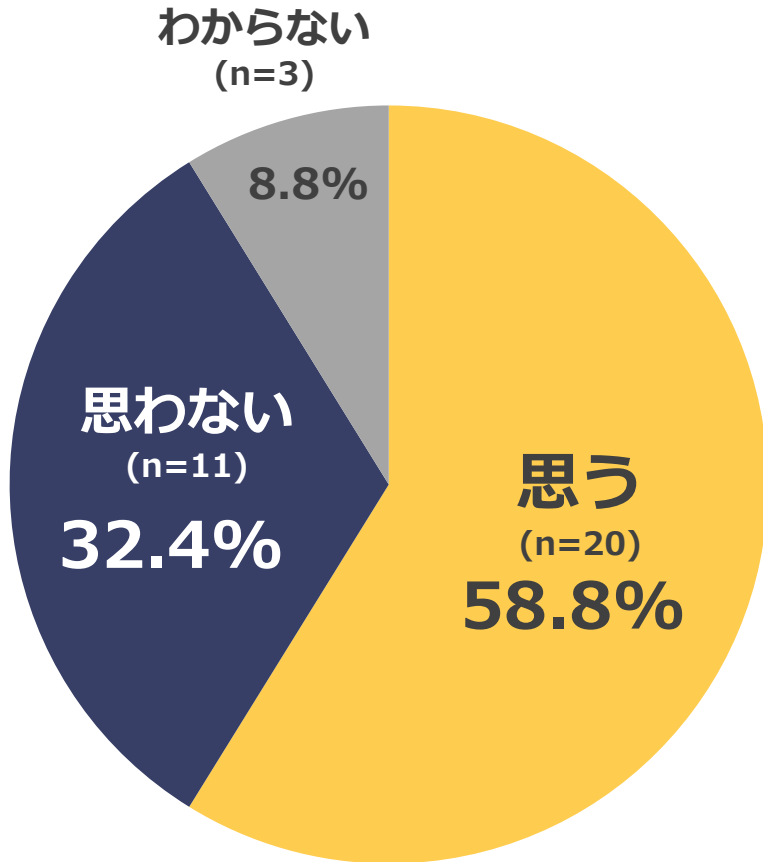


Q14. <「思っている」とお答えの方>あなたのお考えに近いものをお選びください。(n=1382)

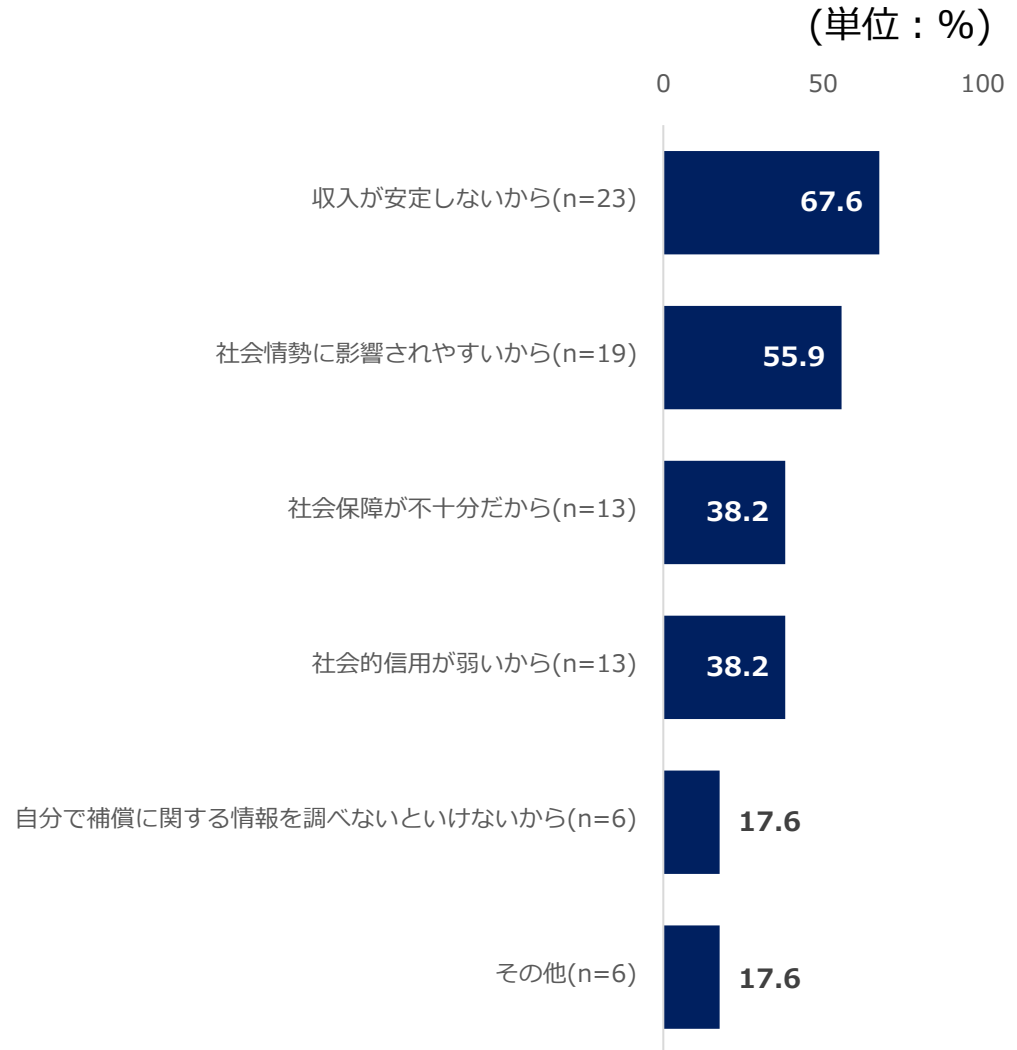




Q15. <フリパラを継続したいと「思っていない」方>
1つの企業・組織に雇用されたいと思いますか。(n=34)



Q16. <フリパラを継続したいと「思っていない」方>
あなたがそう思う(左記)理由を教えてください。(n=34)



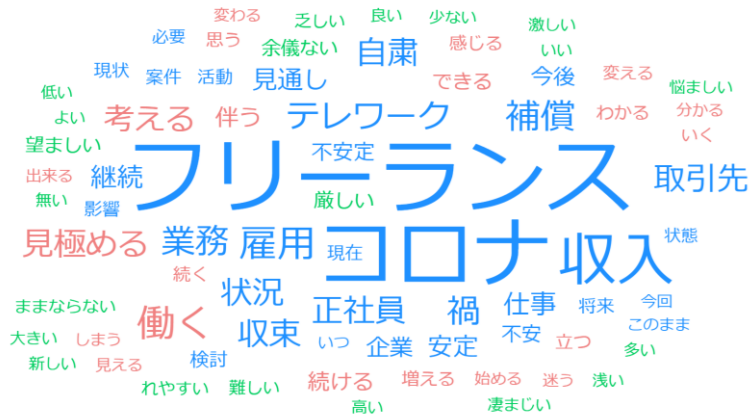


Q17.<「わからない」とお答えの方> よろしければあなたのお考えをお聞かせください。(n=195)

※自由回答の内容を、ユーザーローカル社テキストマイニングツールを利用して解析。

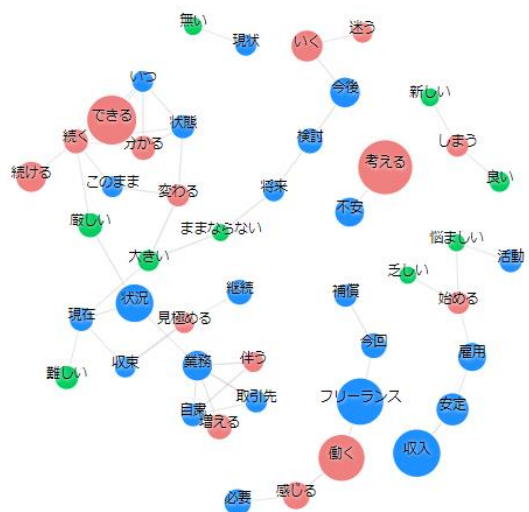
<ワードクラウド>

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



<共起キーワード>

文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。



- 子育て中なので、今後の休校延長などを考えると、このままフリーランスとして仕事していくしかないと感じるが、今回のコロナによって収入や立場が不安定であること、またもし自分が病気したらという不安が恐怖に変わりました。時短勤務やテレワークなどもう少し柔軟な働き方が広がってくれば、フリーランスという働き方に固執する必要も少なくなってくるのかなと感じています。(30代女性)
- クライアントとの関係が良好なおかげで収入面の不安は少ないものの、社会的・健康上のリスクに非常に脆弱なことが改めて分かったので、「いつキャリアチェンジをするか？」を考えさせられている(企業に所属する、フリーランス一本から平行ワークに移行するなど)。ただ、答えがまったく出ていない。(30代男性)
- たまたま昨年から小学校の非常勤講師も兼任していて、幸いそちらの収入があったので現状それほど困窮せずに済んでいます。一方で完全なフリー音楽家やオーケストラ奏者はかなり厳しい状況に置かれているのを目の当たりにしています。音楽家としての仕事を主体にしていきたいと思っている一方で、そうも言っていられないのではないかと悩んでいるところです。(30代女性)
- 今回のような事態になったときのフリーランスの脆弱性を痛感した。とはいえ年齢的な条件もあり、被雇用者になるのは難しい。(50代男性)
- 写真教室講師と企業や飲食店などの撮影で生計を立てていますが、撮影ありきの写真は現場や対面仕事のため、外出自粛になった場合、テレワークもできません。金銭的な補償もないので、このようになったときはやはり補償対象になる立場が有利なのだと思います。(50代女性)

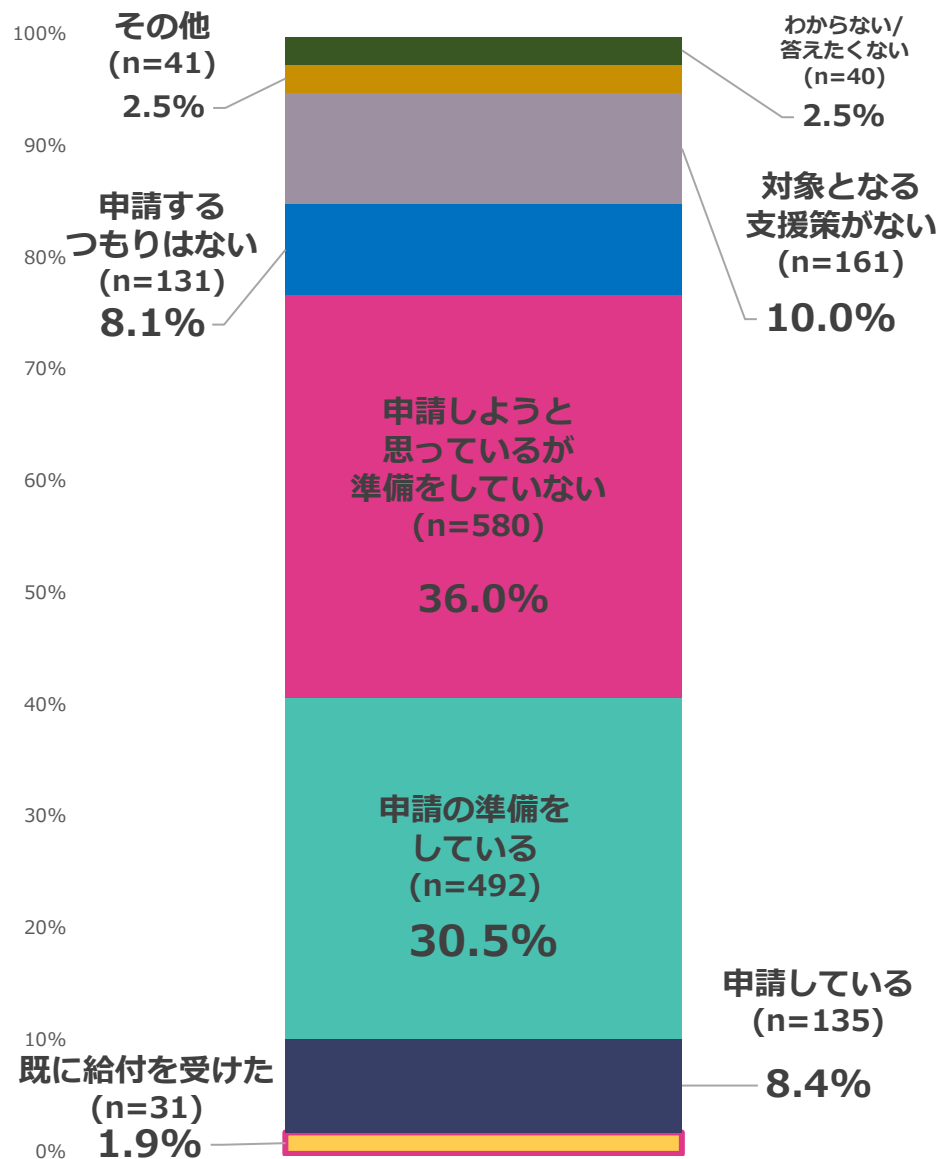
【フリーランス】支援策の申請状況と給付時期



(単位：%)

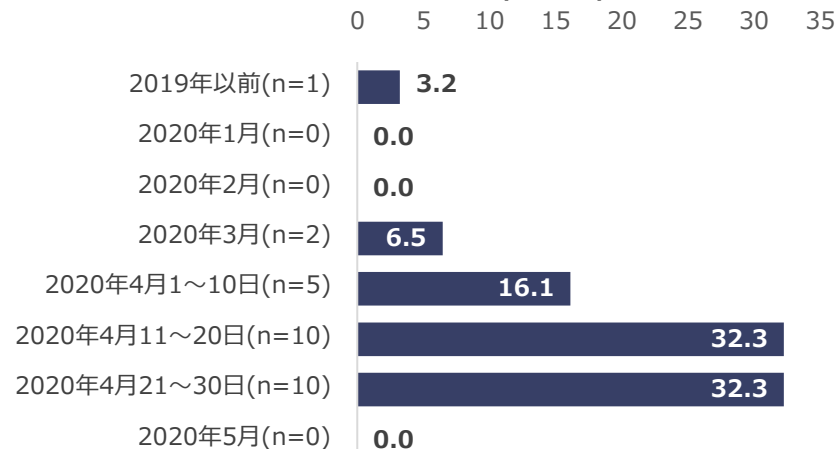
Q18.フリーランスに対する下記のコロナショック支援策をご存知ですか。

※対象がフリーランスだけではない支援策も含まれます。(n=1611)



<事業者向け>	
【給付】	持続型給付金(史上初の事業者向け現金給付/個人事業主100万円、法人200万円)
【助成】	雇用調整助成金(雇用の維持を図るための休業手当に要した費用を助成する制度)
【融資】	日本政策金融公庫の無利子・無担保の融資(最大3000万円が無利子無担保で借りられる)
【融資】	商工中金の無利子・無担保の融資(最大1億円が無利子無担保で借りられる)
【融資】	民間金融機関の無利子・無担保の融資
【融資】	マル経融資(小規模事業者経営改善高資金融資制度)の実質無利子化
【融資】	中小機構の小規模企業共済の無利子融資
【融資】	セーフティネット4号(信用保証協会による保証付き融資)
【補助金】	ものづくり補助金の特別枠(コロナ影響下の生産性向上に取り組む事業者向けに、補助率等を引き上げ)
【補助金】	小規模事業者持続化補助金(補助金審査における加点)
【補助金】	IT導入補助金の特別枠(コロナ影響下でのテレワークツールの導入に取り組む事業者を優先的に支援)
【保険料】	従業員の厚生年金保険料・労働保険料等の社会保険料の納付猶予(従業員を雇用している場合)
【税】	消費税の課税事業者は、非課税事業者にされる特別措置(事後申請でも課税事業者をやめることができる)
【税】	テレワーク投資の税優遇(リモートワークのための設備投資の税額控除)
【税】	固定資産税等の特別(仮卸資産及び事業用家屋に係る固定資産税と都市計画税の減額)
【税】	中止等イベントのチケット払い戻し放棄の寄附金控除(チケットの払い戻し放棄に対する税優遇制度)
【要請】	経済産業省・厚生労働省・公正取引委員会連名の発注事業者に対する取引上の適切な配慮要請
<個人向け>	
【給付】	生活支援臨時給付金(仮称)(生活維持のための臨時の支援金/1人10万円)
【貸付】	生活福祉資金貸付制度の特例措置(収入減少があった世帯の資金需要に対応する貸付/最大4か月80万円の特例貸付)
【税】	国税・地方税の1年間の納付猶予(確定申告納税者のみ/ほぼすべての国税と地方税が無担保・延滞税免除で猶予される)
<子育て世帯向け>	
【給付】	小学校休業等対応支援金(休校により、契約した仕事ができなくなっている子育て世代向け支援金)
【助成】	企業主導型ベビーシッター利用者支援事業の特例措置(ベビーシッター助成/利用回数・利用対象者の拡大)
【給付】	児童手当の1万円上乗せ

Q19.<「既に給付を受けた」とお答えの方>よろしければ給付時期を教えてください。(n=28) (単位：%)

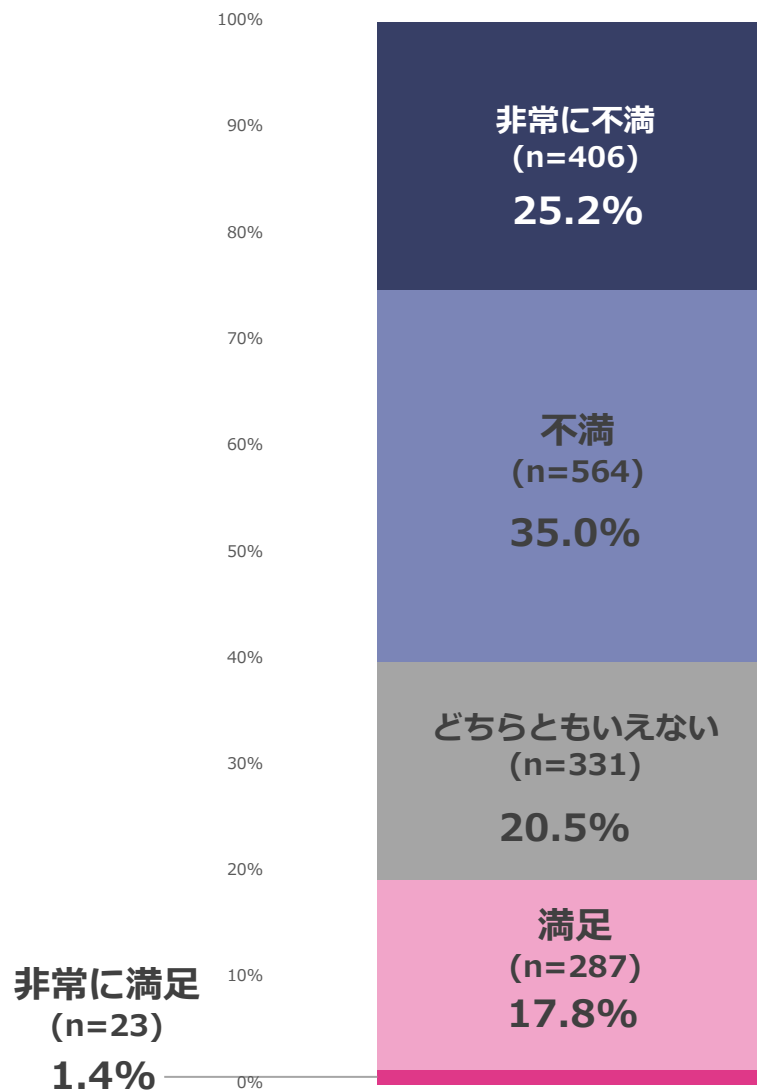


■ 【フリーランス】支援策への評価



Q20.政府による支援策へのあなたの評価を教えてください。(n=1611)

(単位：%)

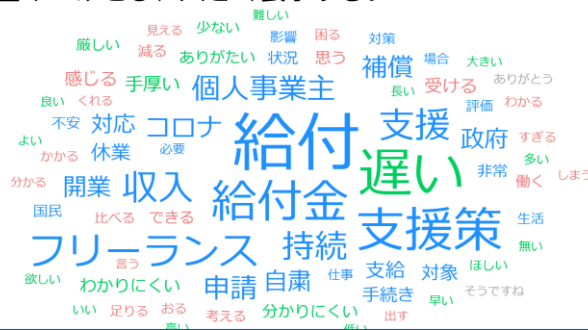


Q20-1.そのように評価した理由をよろしければ教えてください。(n=1029)

※自由回答の内容を、ユーザーローカル社テキストマイニングツールを利用して解析。

<ワードクラウド>

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



<「非常に不満」「不満」のコメント>

- 今年開業の個人事業主にも支援してほしい。厳しい。(20代男性)
- 開業届は2019年以前に行っているが、実働(売上の計上)は2020年1月からで、持続化給付金の対象にならない点。3月の売上が激減したうえに今後も減少が続く見込みの中、貯蓄を取り崩す生活を続けなければならず、困っている。1月及び2月の売上との比較は帳簿では可能。たった1ヶ月の差で対象外になるのはまったく解せない。(40代女性)
- 申請しようにも書類の準備にとっても時間と労力がかかる(40代男性)

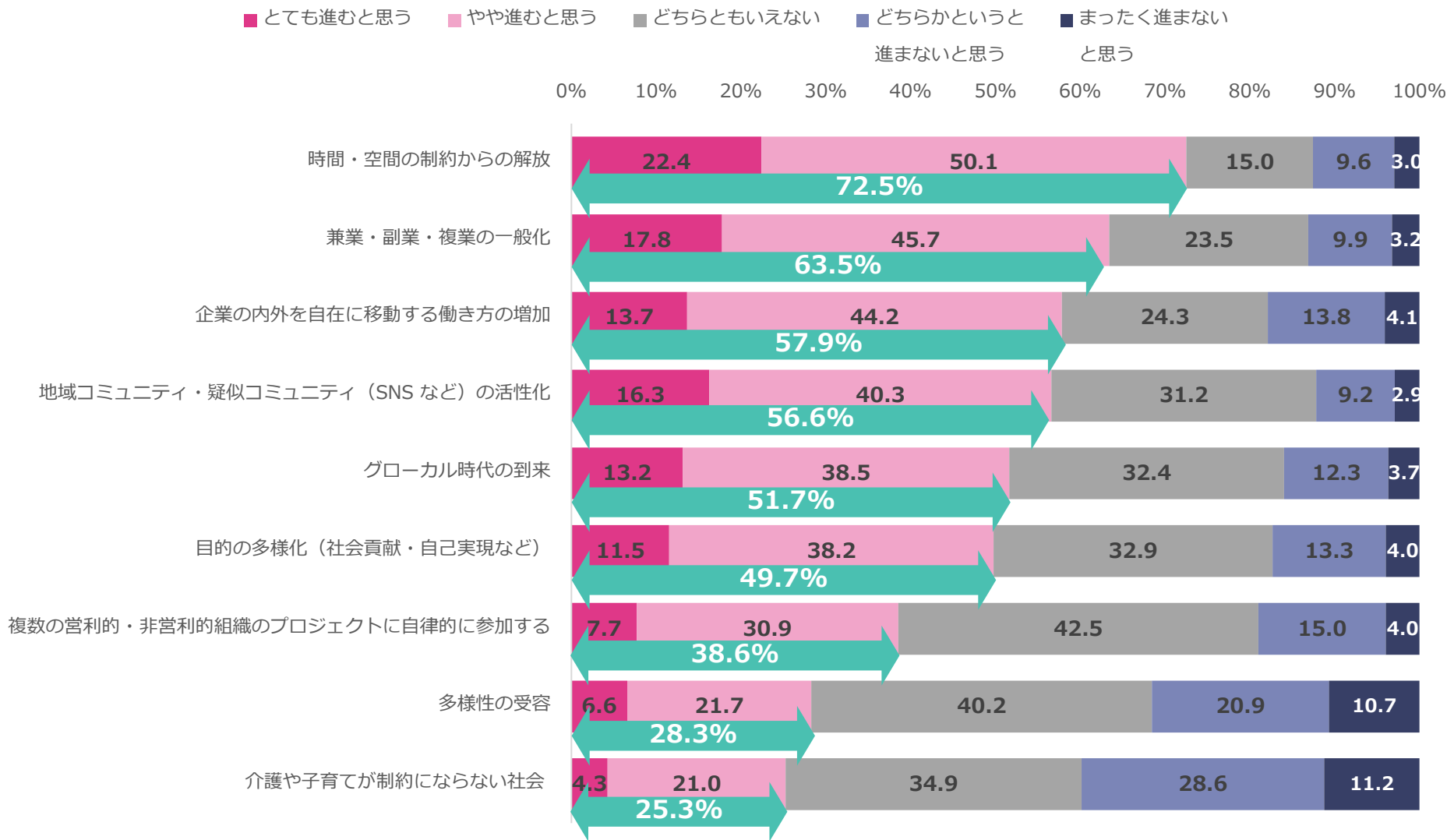
<「非常に満足」「満足」のコメント>

- 持続化給付金制度の策定、実施を早期に実現したため。コールセンター開設後まもなく問い合わせたが、対応も非常に丁寧だった。(40代女性)
- フリーランスにも現金の給付を行ってくれる点を評価。また、全国民への給付もよいと思うが、もう少し早く決まればなおよかったと思う。(30代男性)



Q21.アフターコロナの世の中では、働き方はどのような方向に進むと思いますか。(n=1611) (単位：%)

※厚生労働省「働き方の未来 2035」一人ひとりが輝く 2035年における働き方にあげられた項目について聴取。

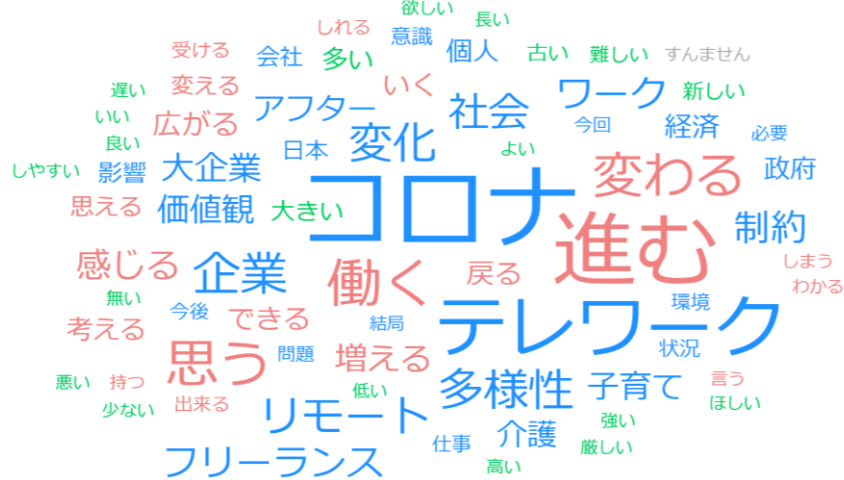




Q21-1. そのようにお考えになる理由を、よろしければ教えてください。(n=705)

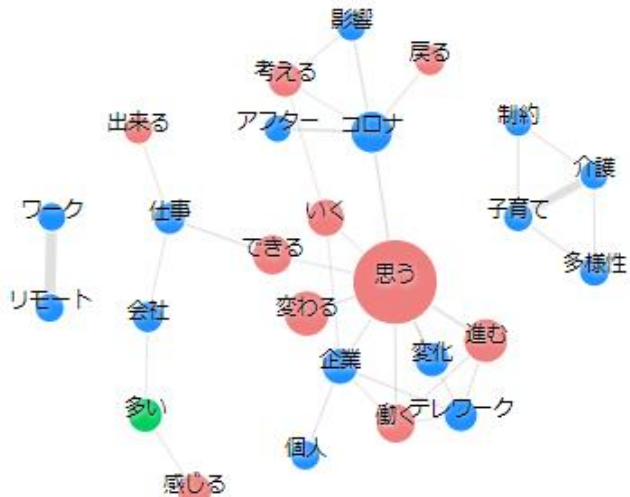
<ワードクラウド>

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



<共起キーワード>

文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。



<時間・空間の制約からの解放>

- 時間や場所の制約は実際やってみてできた企業は解放されていく。副業は自社だけで従業員を支えることができなくなる企業が増え、なし崩し的にひろがっていく。それでも自分と違う他人を受容する余裕がなくなり、介護や子育て、多様性の需要についてはさらなる自己責任論が多くなり、一般論の許容すべきという上辺の言論とは別に許容しない人が増えていく。(30代女性)
- 個人に時間ができ新しい活動に参加できるようになる。その中で自分で考え自分で行動し、自分の知識や技術を広げていくことのできる人が、社会で力を発揮できる未来がくると思います。そうでない人は、結局雇用にしがみつくのかかもしれませんが、そうした会社そのものがなくなっていくと考えています。自らが行動することで地域や、オンラインでの繋がりは自然と増加し、介護や子育てと言った社会課題も見直されていくのではないのでしょうか。オンラインというフラットな世界では、身分の差も生まれにくく、結果がすべてなので、それぞれの個性や特長が尊重されると思います。(30代女性)
- 会社や組織、場所にとらわれない働き方が進むと思います。残念ながら消滅する企業や店舗なども生まれる中で、元に戻るのではなく新たなワーキングスタイル、自由に生きる価値観を追求する機運が高まると思います。(50代女性)
- 対応せざるを得ない状況の下で、現在は場所や時間に制約されない働き方が強制的に広がっているが、例えば保育園や小学校・学童を休校にする判断の後ろに「在宅勤務なのだから家でみられるだろう」という価値観があるように思う。働くパパ、ママに聞いてもそんな無理で、今は緊急事態宣言の下、時限的な措置であるからなんとか耐えているという状況。このあり方のまま、場所や時間に制約されない働き方や、介護や子育てをしながらでも仕事ができるという価値観が社会に広がってしまうことに懸念を持っているし、おそらくアフターコロナの経済たてなおしの状況では、やはり元どおりみんな企業のオフィスに出勤しての働き方のほうが多く残ると思う(一部の柔軟な企業を除く)。また、東日本大震災後10年が経つ日本でも、あまり社会のために、ひとのために、という価値観が広がっていないことを鑑みると、目的的多様化は期待できない。コミュニティは、みんなつながりは欲していることは事実であるものの、あれば参加する、自分では行動しない、というフォローが多い日本社会では、これまで通り、行動力のある人の周りにしか広がらないと思うので上記の回答にしました。(30代女性)



Q21-1. そのようにお考えになる理由を、よろしければ教えてください。(n=705)

<兼業・副業の一般化>

- ダイバーシティについて、日本人はまだ多様化という概念を持っていない人も多いと思いますし、個人の能力や個性を尊重するより組織、集団の中で調和することを求められるから。「みんな同じ」がよしとされる空気は未だに感じます。兼業、副業の一般化については、実際自分の周りでもそういった働き方をしている人が増えているから。(40代女性)
- 働く人でいえばシングルキャリアの人は、キャリアの選択肢としても収入源という意味でも、パラレルキャリアや副業兼業の重要性に気づく人が増えるのでは。組織もコロナによる売り上げゼロで従業員を解雇したというニュースも出たが、従来型の形で専門を前提に雇用し続けるリスクを感じたところは今回解雇しなかったとしてもアフターコロナでは、副業解禁と推奨、フリーランスなどの多様な人材の活用を検討するところも増えてくるのではないだろうか。また、密集がリスクであることに気づいたことで、都市部の大企業もリモートワークやフレックス勤務、サテライトオフィスなども検討が進みそう。優秀な方を集めるために在宅勤務と子育ての両立支援もインセンティブになるのでは。また、開疎化が進み首都圏一極リスクを認識した人の一部から地域への人財の環流もあり得るだろう。地域は現在コロナを乗り切ろうと相互扶助のサービスや動きが活発に出てきているので、地縁の力はさらに高まっていくはず。(30代男性)
- 今回のコロナ禍によって、図らずも強制的なテレワーク実験が実施された。これまで見て見ぬ振りをしてきた人々および情報セキュリティを盾に拒み続けてきた人々は前例が出来てしまった事により、NOとは言えない状況になった。また感染爆発という新しいリスクが顕在化したよって時間と空間の制約やオンラインコミュニティによる働き方は更に加速するものと考えられる。また企業が個人を守りきれないことも露呈してしまった為、兼業副業についてもリストラの延長で認められるようになると考えられる。一方、目的・価値観の多様化という視点については何ら影響を受けていない為、先述の対策を加速させることと引き換えに逆に優先順位が下がる可能性があると思う。(40代男性)
- 移動の制約などは物理的なメリットと経済的なメリットが企業にも個人にもあることが今回の体験により確認できたので、ある程度進んでいくとは思う。同じく副業は、テレワークの環境下ではやりやすいことと、経済的な理由で必要性が高くなるので進みそう。子育てやグローバル、多様性はまだ経済的な効果まで感じる人、考える人が少ないので、実現しにくいと思う。経済的に厳しい局面を迎えている人も多いと思うので、どうしても最低限の経済が回る事が優先されてしまうように思います。(40代女性)

<企業の内外を行き来する働き方>

- テレワークの時間が増加して、住まう地域にいる時間が長くなれば、その分だけ地域へのコミットの可能性はひろがる。しかし、地域とのコネクションはただ時間が長くなるだけでは得られない。企業の内外を移動する働き方、については地域性のあるコワーキングなどがもっと一般化すれば、業務以外の接点が広がる分だけ、可能性はあるが、企業文化やルールの移行が進まなければ実際の動きには至らないだろう。(40代男性)



Q21-1. そのようにお考えになる理由を、よろしければ教えてください。(n=705)

<地域コミュニティ>

- フィジカルな移動はかなり希少になる可能性があり、遠いところはオンラインというかたちになるだろう。それぞれの専門でつながる人は地域性なく広がっていくだろうが、個と個のつながりが中心になるため、ますます閉じられたコミュニティになるのではないか。今のSNSのつながりかたは疲れというか、反動がくるように思う。ますます世代格差が進み、情報コミュニケーションのリテラシー格差が目立ってくるはず。社会全体としては、オンラインでのフィジカルな体験という一見矛盾したコミュニケーションができてくるだろうから、今えらい人たちが進めたがっているダイバーシティとかユニバーサルデザインだとかは、まったく形を変えていくような気がする。数年の間にこれまでの価値観がまったく通じなくなるくらいの変化ではないかと思われる。(50代女性)
- 大企業を中心にリモートワークが半強制的にスタートした事による影響、ステイホームによって自分の今後を考える時間ができた事。グローバルな移動はしばらくできない事が予測されるが、リモートワークによってグローバルが進むこと。生存戦略として地域コミュニティが重要になるのでは。(30代女性)
- 必ずしもオフィスで働かなくても経済活動を進めることができることが確認出来たので、通勤にかかっていた時間をプライベート、家族、ローカルコミュニティ等のために従来以上に利用可能だから。(60歳以上男性)
- リモートワークがビジネスの武器になることを体感しました。何が無駄だったかあぶり出されていることでしょうか。バックオフィスはスリムになり（紙媒体の縮小など）、ミーティングが工夫され、新鮮な情報を共有サーバーなどでオープンに管理できるでしょう。情報が新鮮であればプロジェクトは加速していくと思います。時間の余裕が生まれるので、自信のスキルアップやコミュニティの参加、介護や子育てに時間を使うことが可能になるでしょう。プロフェッサーやクリエイターは鮮度の高い情報をもとに活動し、情勢に合った事柄をターゲット層に届けることができるでしょう。報告・連絡・相談ができる土壌を醸成できているのであれば、活きたプロジェクトのまま進行することが可能かと思えます。ただ、多様性は差別などデリケートな問題が含まれているので、もう少し時間がかかると思えます。(40代男性)

<グローバル時代>

- 「時間・空間の制約からの解放」「複数の営利的・非営利的組織のプロジェクトに自律的に参加する」は難しい気がします。個人の自律性と企業の柔軟性の両方が不可欠です。国として舵を取らない限り多くの個人は自律して動かないと思います。「目的の多様化」については、個人個人のレベルでは進むと感じます。特に若い世代が。「グローバル時代の到来」と「多様性の受容」も若い世代を中心にその方向に進んでいると感じます。(30代女性)



第2部 会社員パネル



<beforeコロナ>

調査期間：2018年10月22日～10月23日

調査方法：インターネット調査（調査委託先：株式会社マクロミル）

調査対象：株式会社マクロミルに登録する18～69歳の会社員（事務系、技術系、その他）、公務員

有効回答数：1030名

※被雇用者であっても役員・パート・アルバイトは含まず、会社員（非正規雇用を含む）が対象

<afterコロナ>

調査期間：2020年4月22日～5月9日

調査方法：インターネット調査

調査対象：フリーランス協会賛助会員協力企業社員、フリーランス協会のメルマガ、SNSを通じた呼びかけ

有効回答数：648名（内 1つの企業・組織から雇用されているもしくは自身で経営している 549名）

コロナ禍で
会社員、経営者の
働き方や人材活用の意識は
どう変わった？

緊急追加調査

フリーランス白書2020

調査結果は政策提言などで広く活用していきます

声を聞かせて！

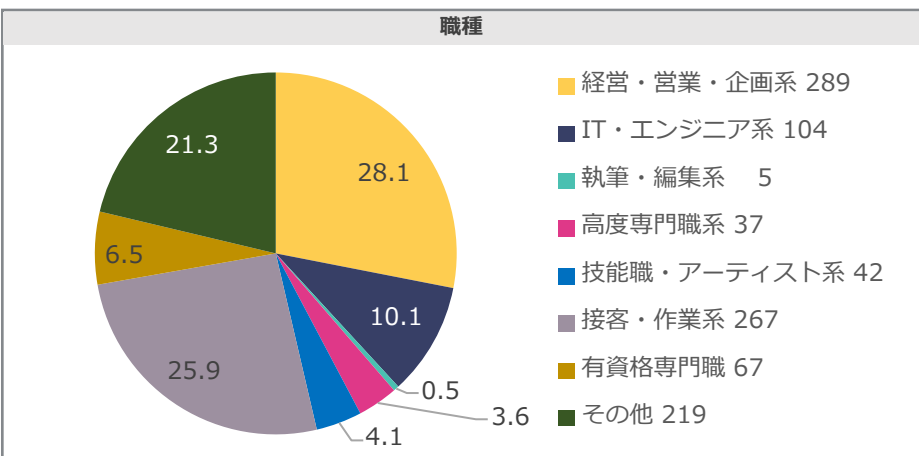
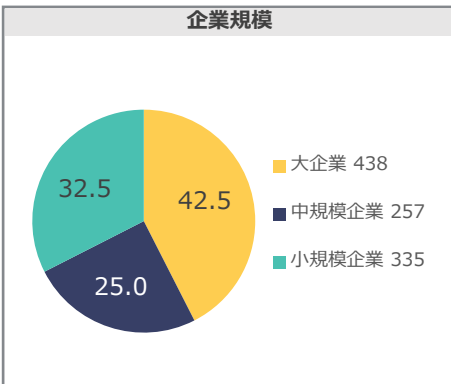
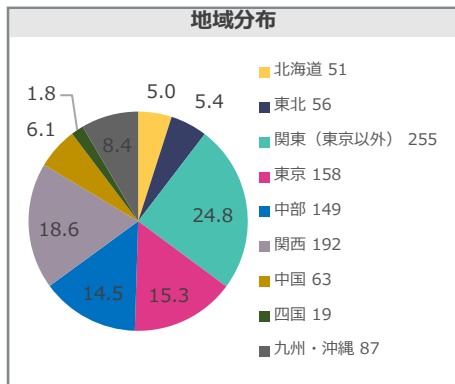
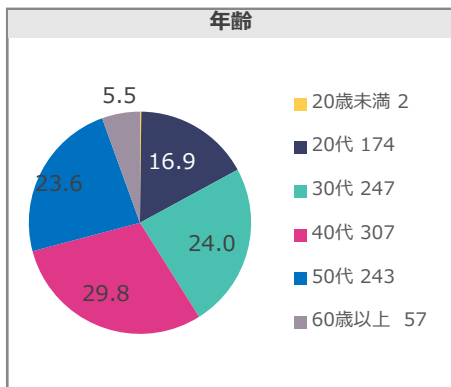
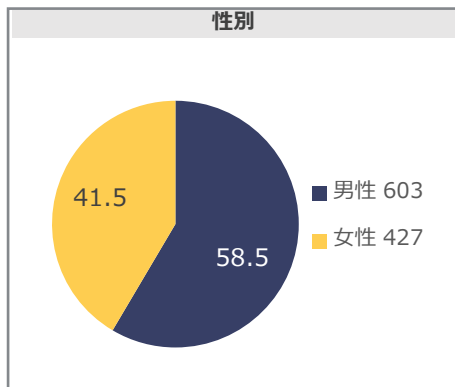
調査締め切り 5/8金 23:59

プロフェッショナル＆バケレルキャリア
フリーランス協会

【会社員】回答者属性

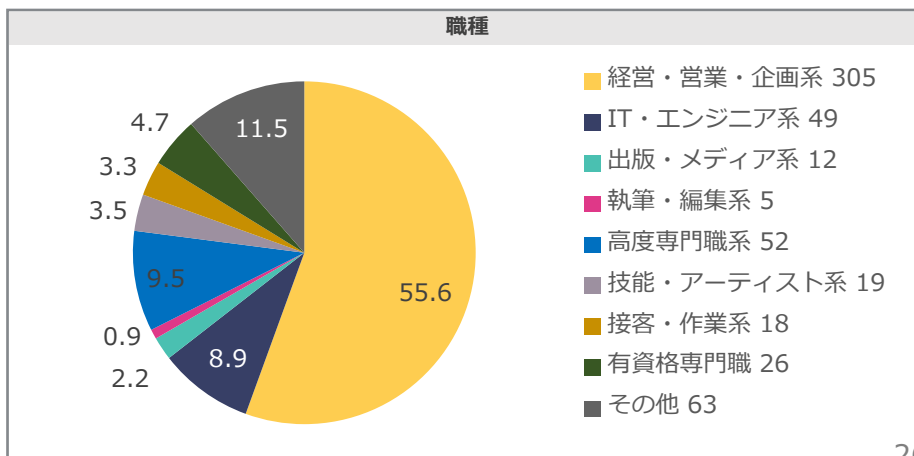
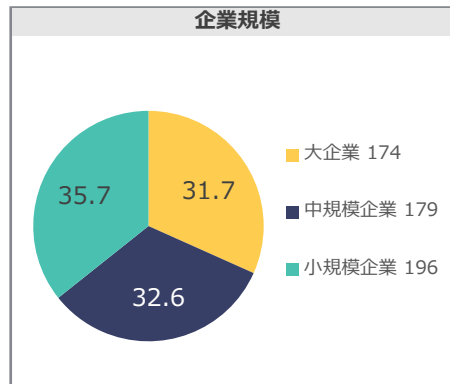
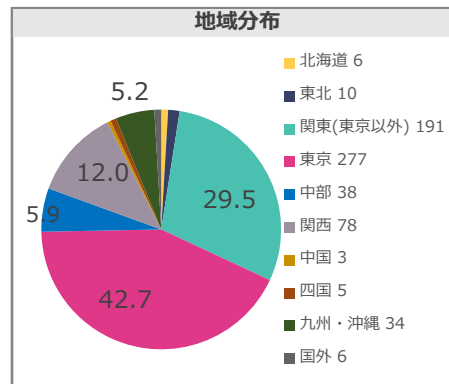
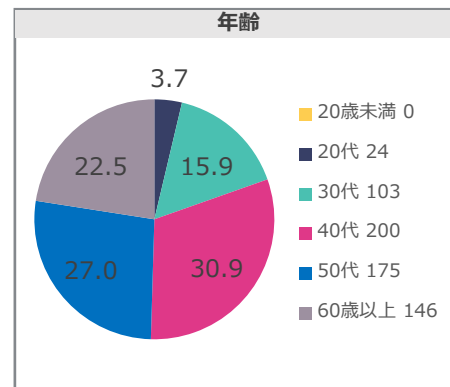
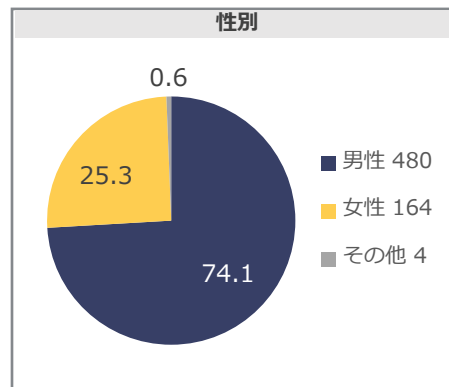


<beforeコロナ n=1030>



<afterコロナ n=549>

(単位: %)

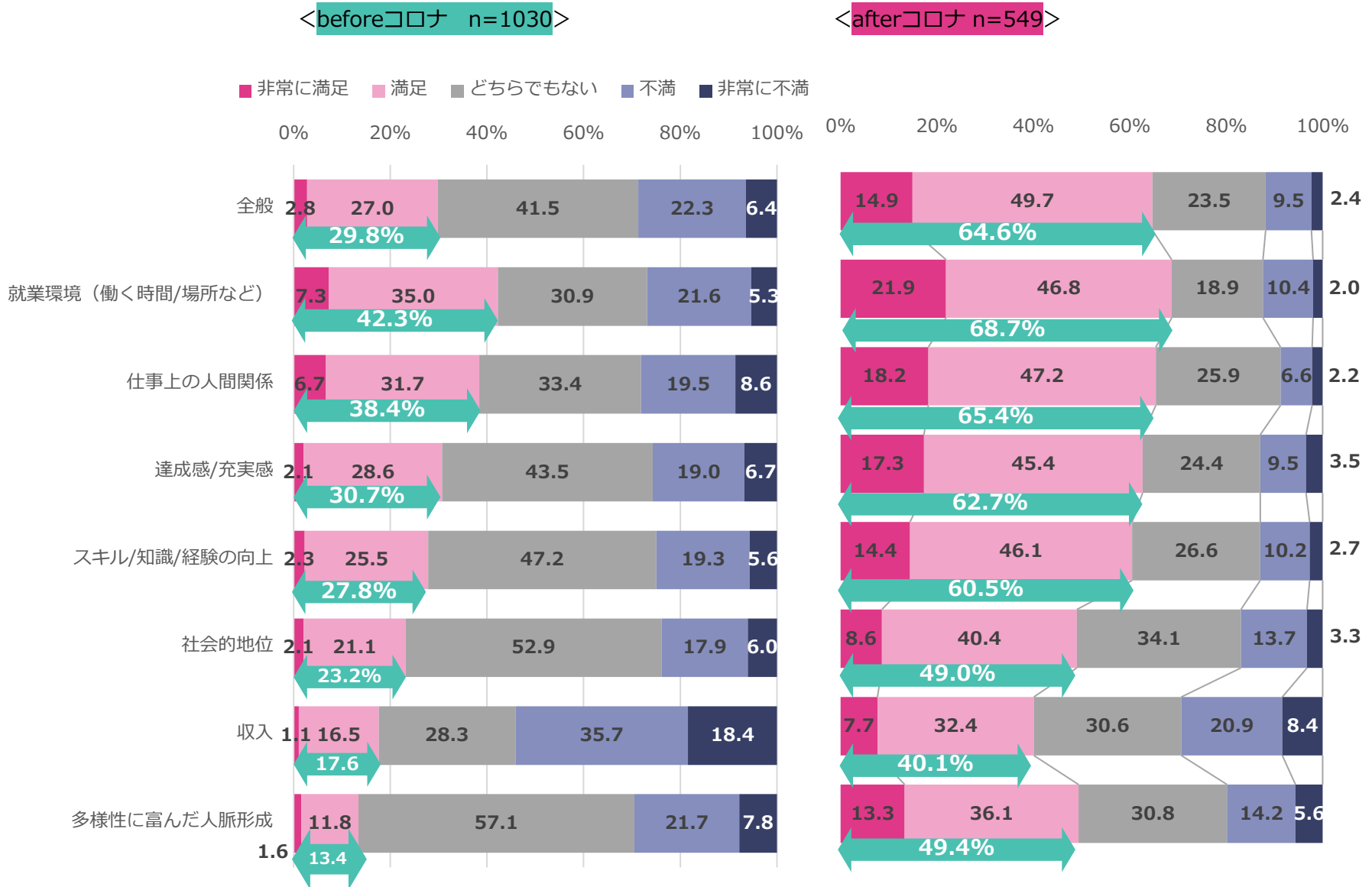


■ 【会社員】 <before/after>今の働き方に対する満足度



Q6.今の働き方で、下記項目それぞれの満足度はどの程度ですか。それぞれお答えください。
5点:非常に満足している⇔1点:非常に不満 (n=549)

(単位：%)





Q8.今の仕事や働き方の問題を解消する、または満足度を高めるための取り組みとして考えていることはありますか。 (n=549 /※「その他」のみ任意回答) (単位：%)

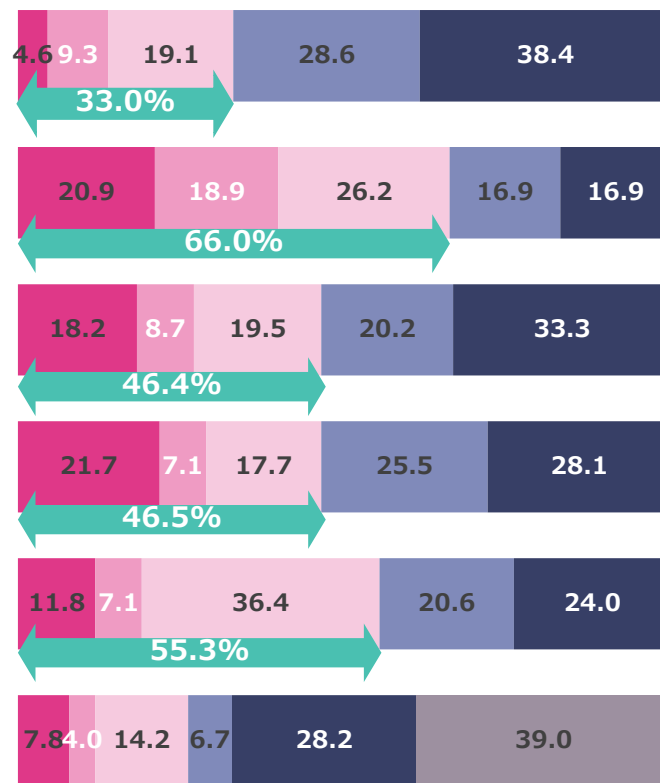
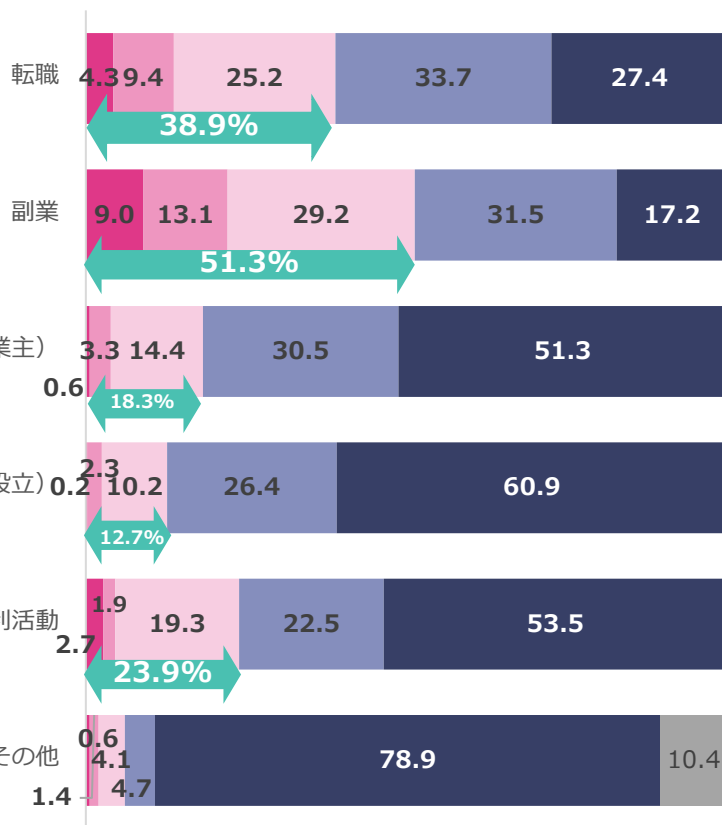
- 現在行っている
- 具体的に考えている
- いつかはしたいと考えている
- 興味はあるが、現実的ではない
- 興味はない
- 無回答

<beforeコロナ n=1030>

<afterコロナ n=549>

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

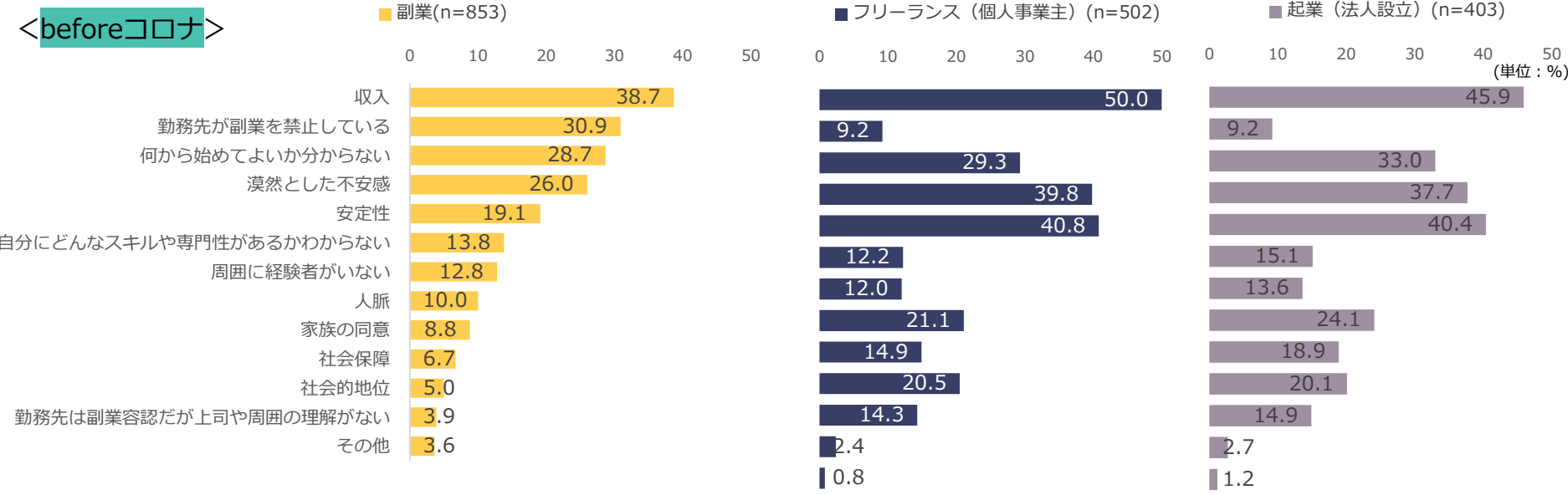




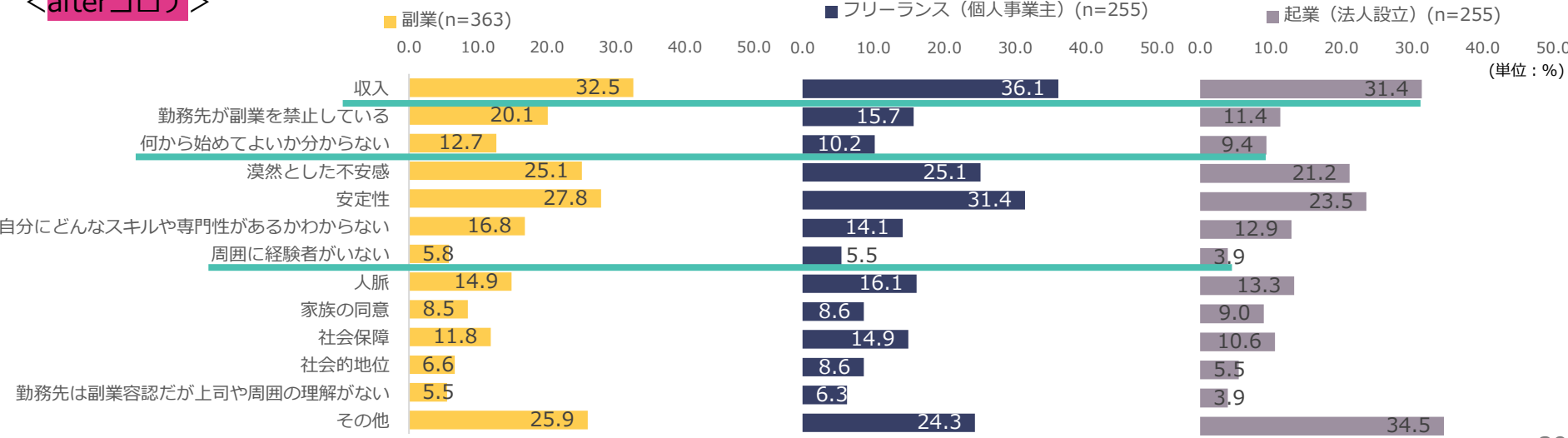
Q9.<副業/フリーランス/起業を「現在行っている」「具体的に考えている」「いつかはしたいと考えている」とお答えの方>
 実際に「副業」をしようと思った場合、何が障壁になりますか。

※下線部分はbeforeコロナ調査に対してすべての働き方で5ポイント以上マイナスとなっている項目。

<beforeコロナ>



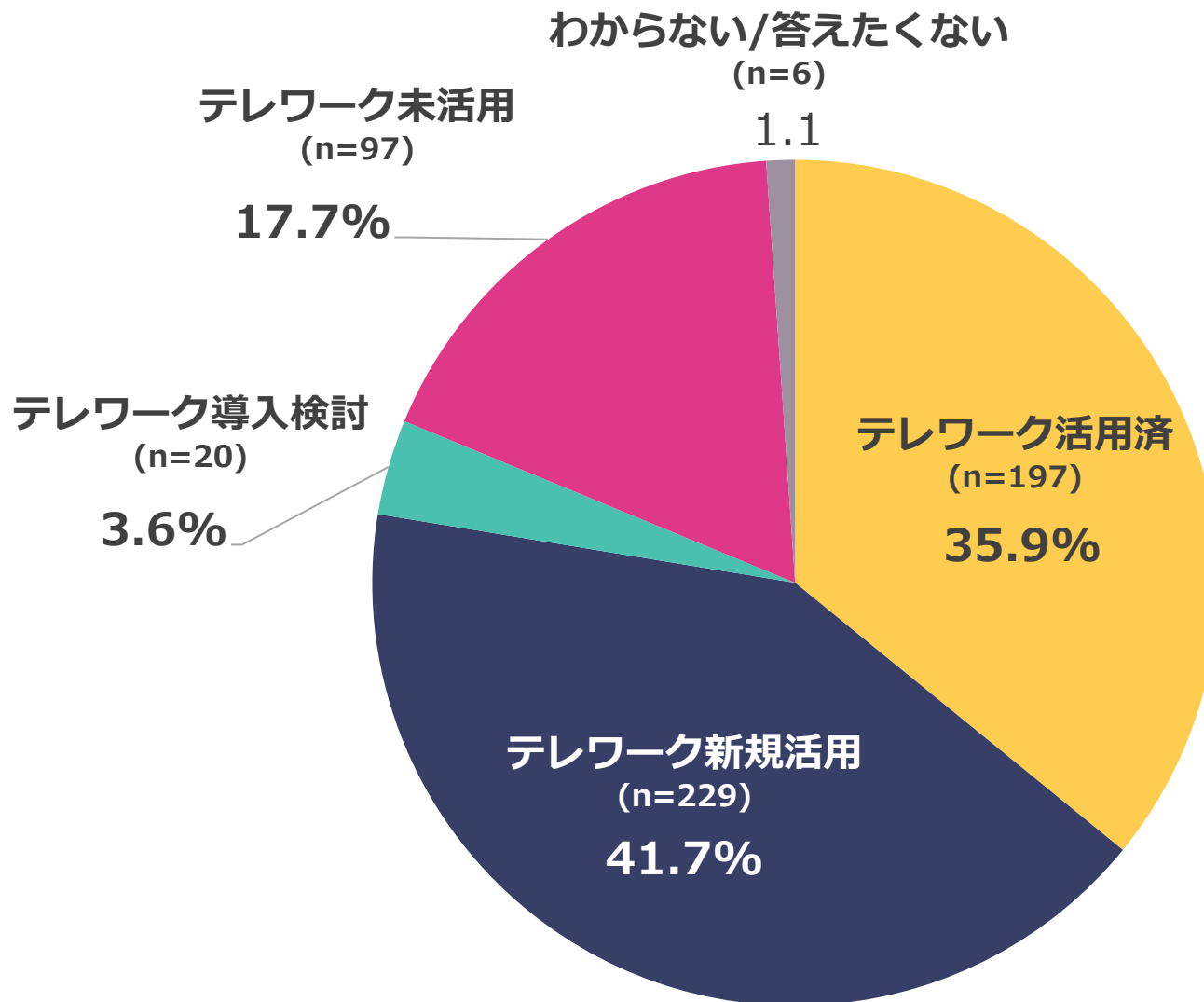
<afterコロナ>





Q10.新型コロナウイルス感染拡大により、在宅ワーク（テレワーク）を活用しましたか。(n=549)

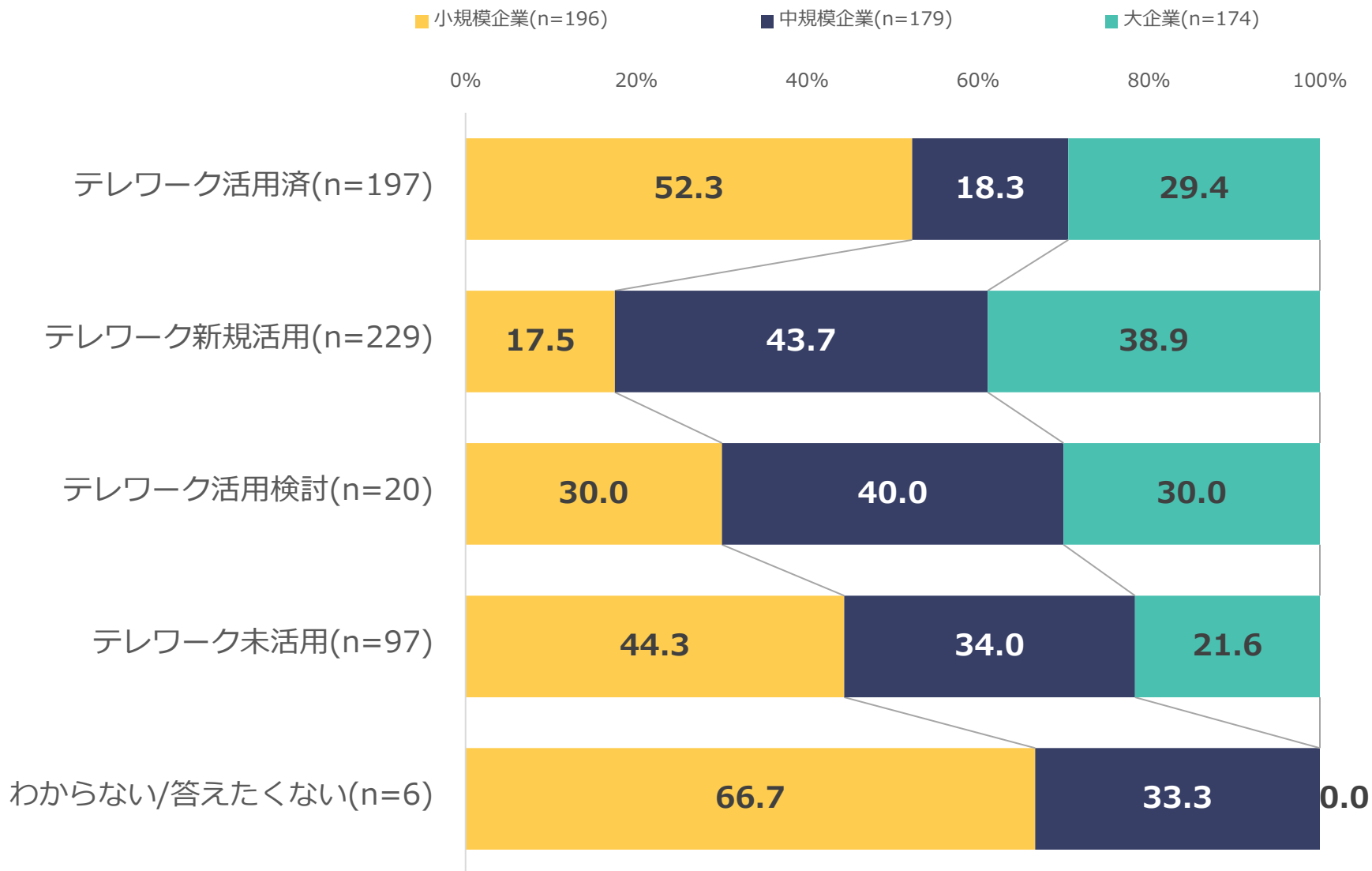
(単位：%)





(単位：%)

テレワーク活用状況×会社規模



■ 【会社員】テレワーク利用状況×今の働き方に対する満足度（全般） / （就業環境）



（単位：％）

テレワーク活用状況×今の働き方に対する満足度

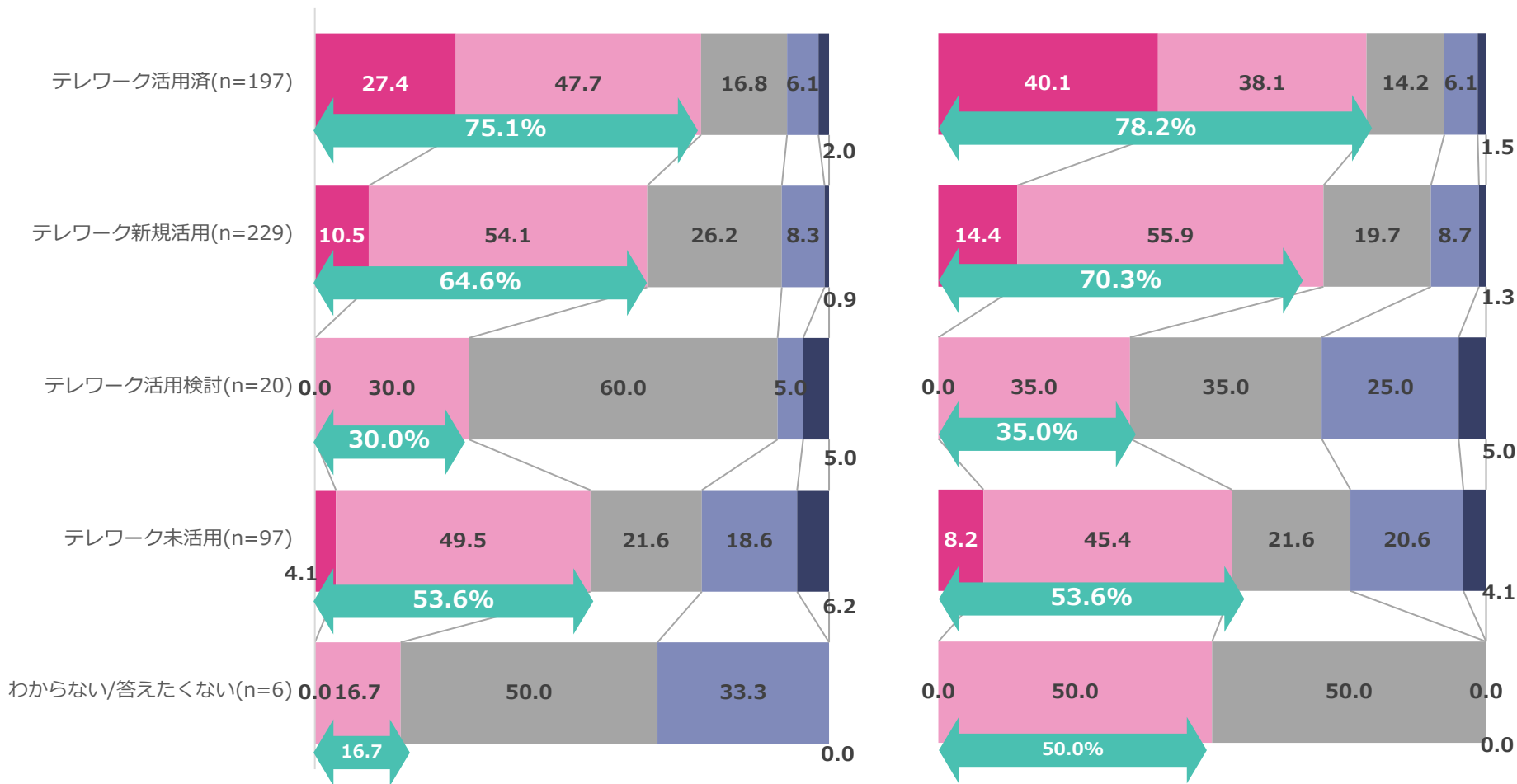
<全般について>

<就業環境について>

■ 非常に満足(n=82) ■ 満足(n=273) ■ どちらでもない(n=129)
 ■ 不満(n=52) ■ 非常に不満(n=13)

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%





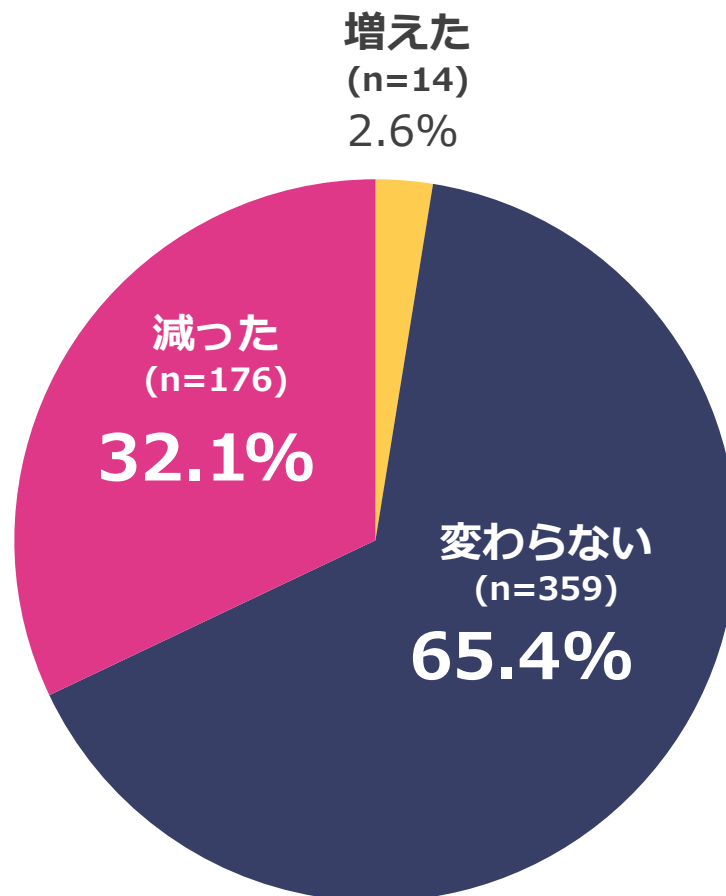
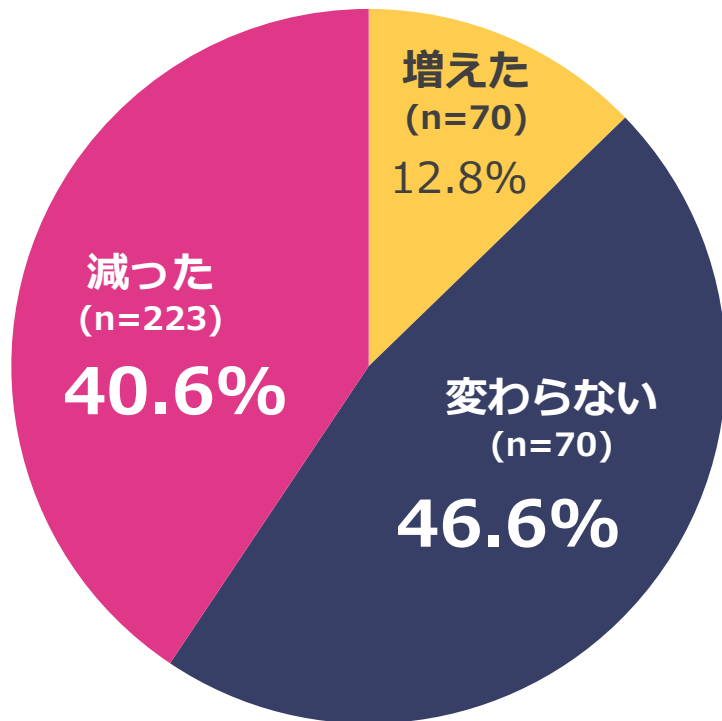
Q11.コロナショック前に比べて、働く時間は変わりましたか。(n=549)

Q11_2.コロナショック前に比べて、収入は変わりましたか。(n= 549)

(単位 : %)

Q11.働く時間の変化

Q11_2.収入の変化

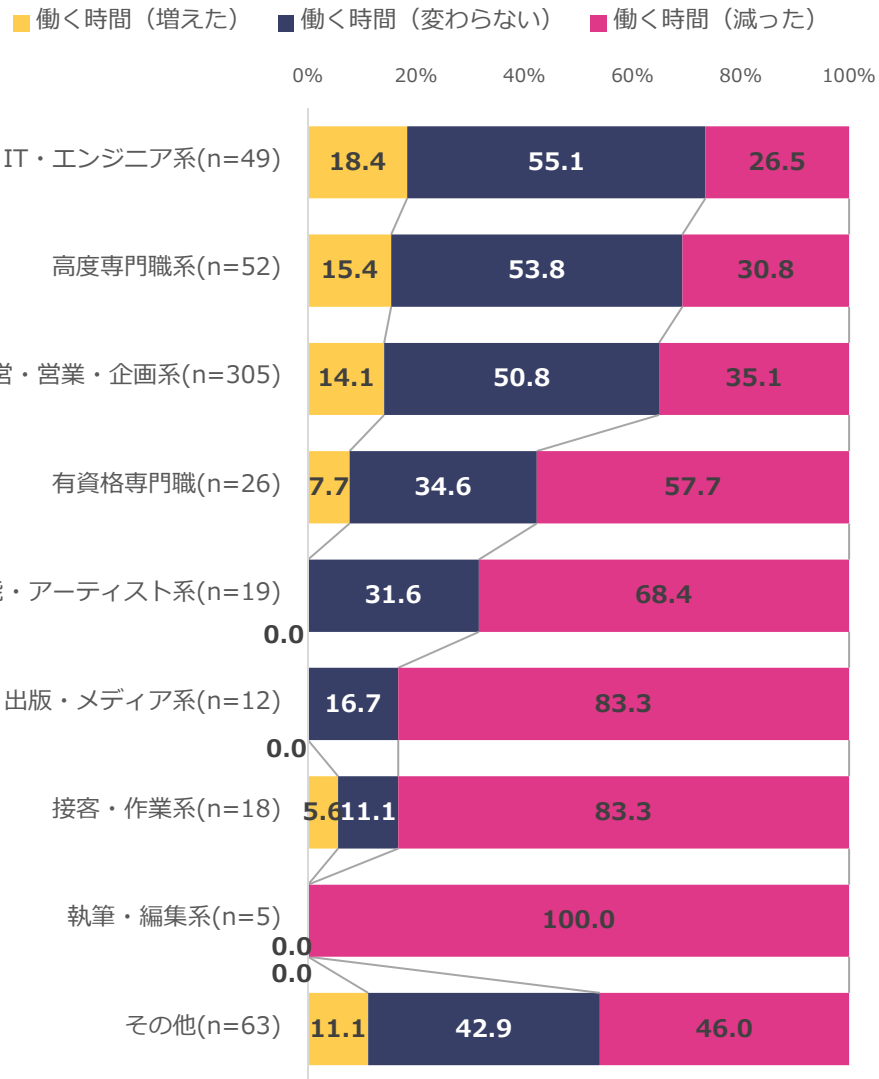


【会社員】職種×働く時間・収入の変化

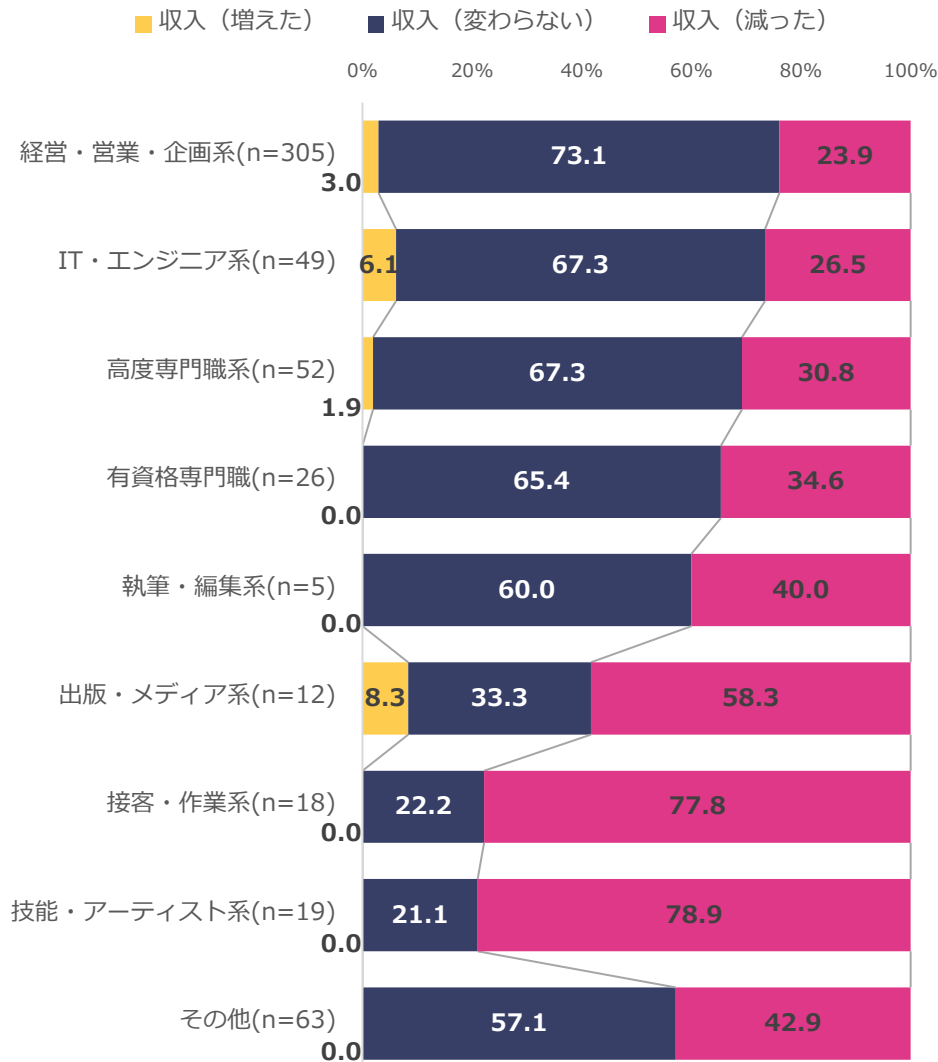


(単位：%)

【会社員】職種×働く時間の变化



【会社員】職種×収入の变化



■ 【会社員】テレワーク利用状況×働く時間・収入の変化

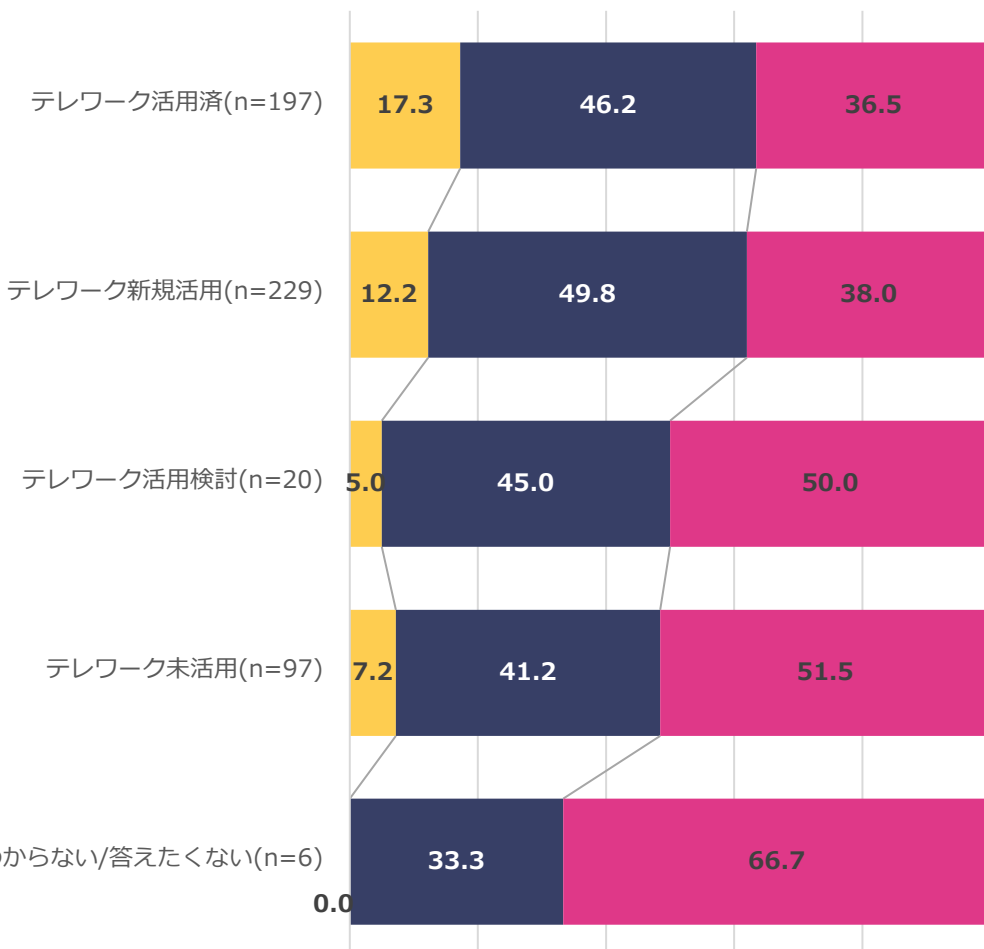


(単位：%)

テレワーク活用状況×働く時間の変化

■ 増えた(n=70) ■ 変わらない(n=256) ■ 減った(n=223)

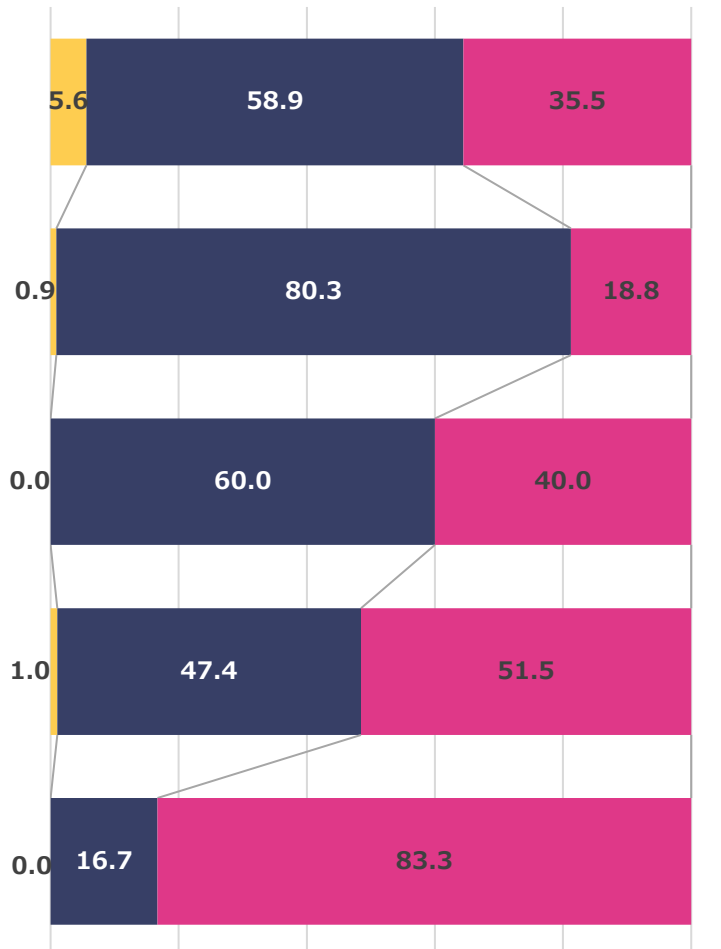
0% 20% 40% 60% 80% 100%



テレワーク活用状況×収入の変化

■ 増えた(n=14) ■ 変わらない(n=359) ■ 減った(n=176)

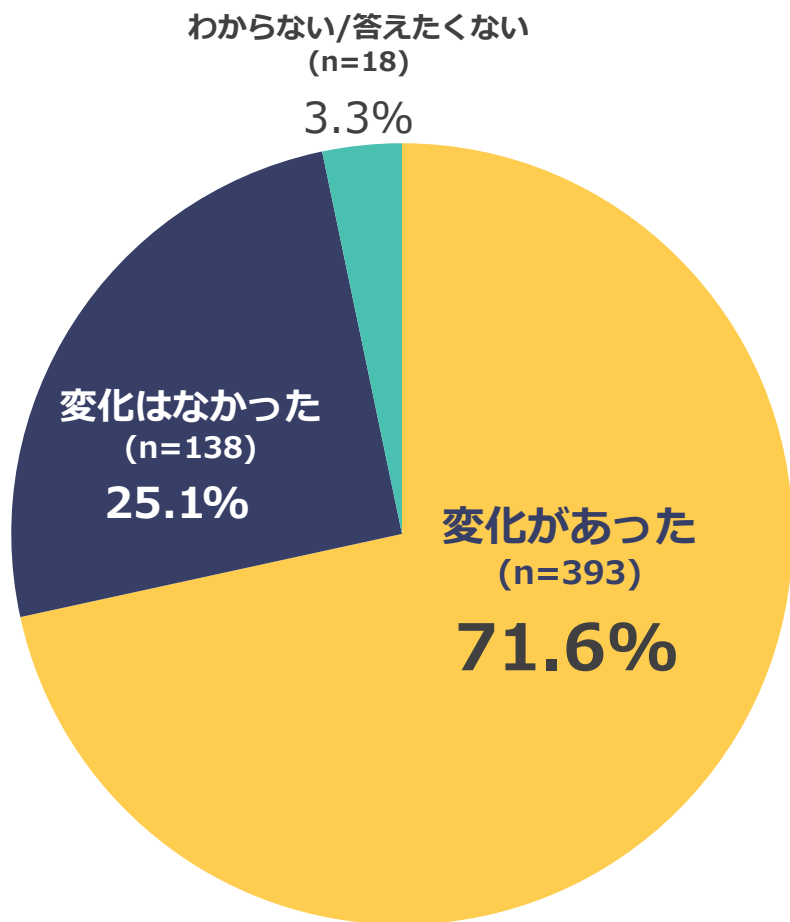
0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 【会社員】 意識の変化



Q12.ご自身の今後の働き方に対して、意識の変化はありましたか。(n=549) (単位：%)

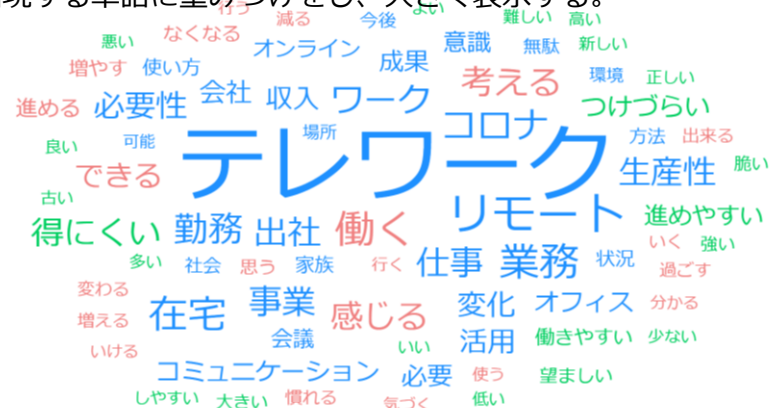


Q13.<「変化があった」とお答えの方>
それはどのような変化ですか。(n=303)

※自由回答の内容を、ユーザーローカル社テキストマイニングツールを利用して解析。

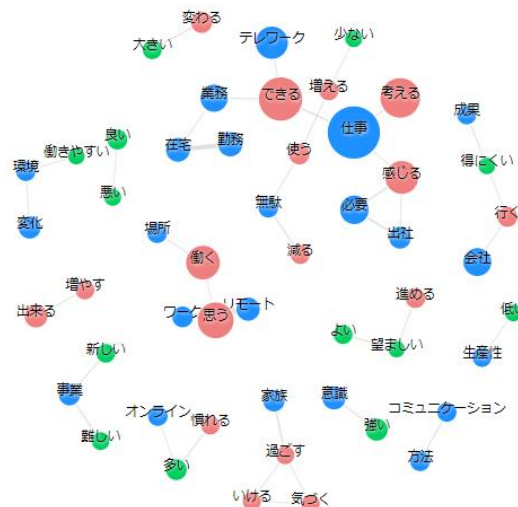
<ワードクラウド>

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



<共起キーワード>

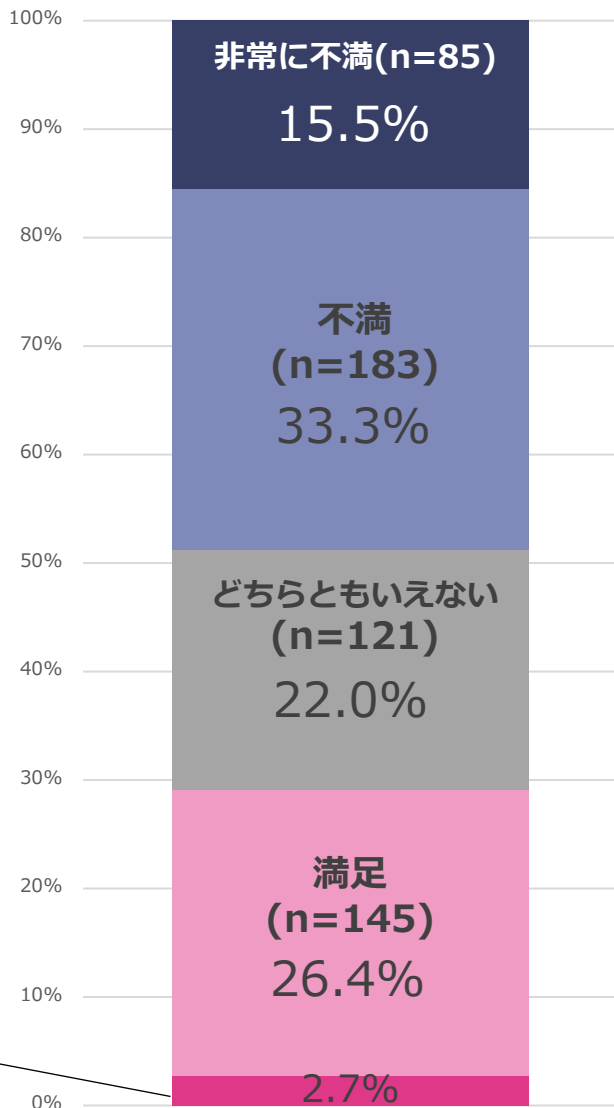
文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。



■ 【会社員】 支援策への評価



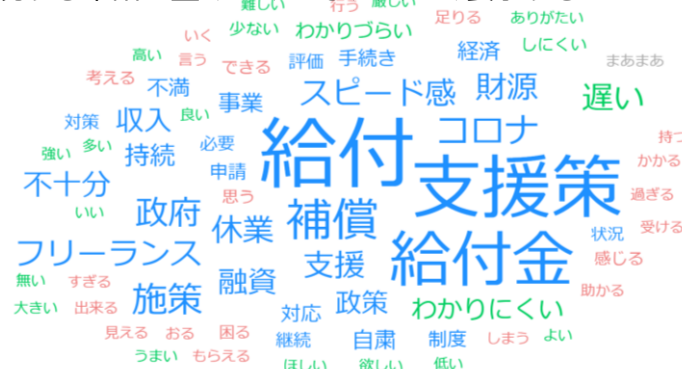
Q14.政府による支援策へのあなたの評価を教えてください。(n=549)
(単位：%)



Q14-1.そのように評価した理由をよろしければ教えてください。(n=273) ※自由回答の内容を、ユーザーローカル社テキストマイニングツールを利用して解析。

<ワードクラウド>

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



< 「非常に不満」「不満」のコメント >

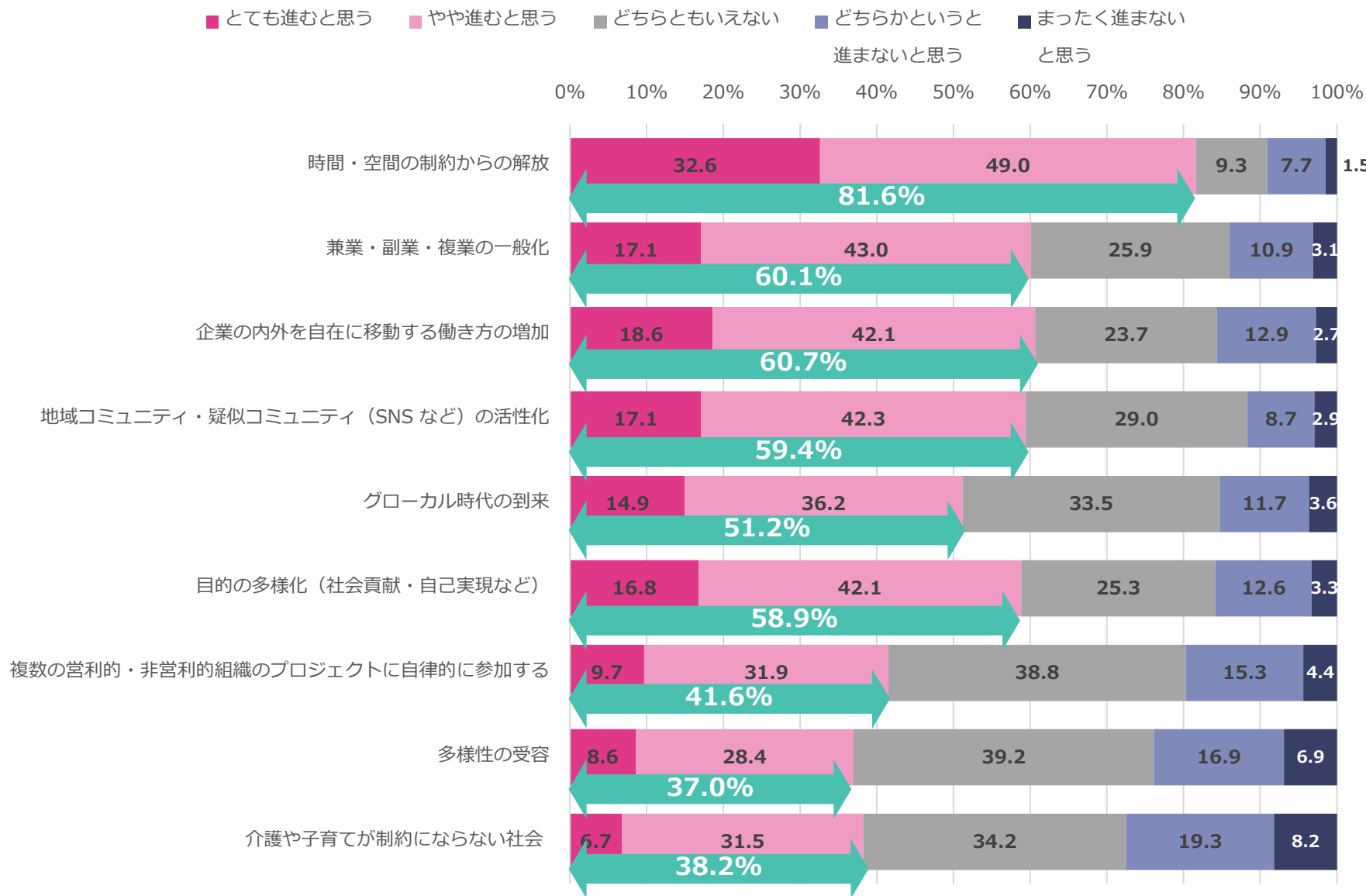
- 未来への借金を増やすこととのトレードオフに値するような政策にのみ、財源を投じていただきたい。その説明も含めて、客観的に妥当とは評価し難く、非常に不満と考えている。(40代男性)
- まずは仕組みとしての即時性や申告自体の難易度が問題である。個人への給付と法人への給付をきちんと切り分けた上で、仕組み自体を簡素化すべき。(一部抜粋)(40代男性)

< 「非常に満足」「満足」のコメント >

- 誰のせいでもないこのような状況で、自分自身の力で乗り越えようと考えている中で、些細なことでも力になってくれる制度があるだけでそれは有り難いことだから。(40代男性)
- 被雇用者で会社も安定的であるため現時点で危機迫る状況ではありません。大胆かつスピード感ある意思決定が必要な局面であるとは思いますが、全体において概ね科学的視点に則る落ち着いた決断がされていると感じています。(50代女性)



Q15.アフターコロナの世の中では、働き方はどのような方向に進むと思いますか。(n=549) (単位：%)

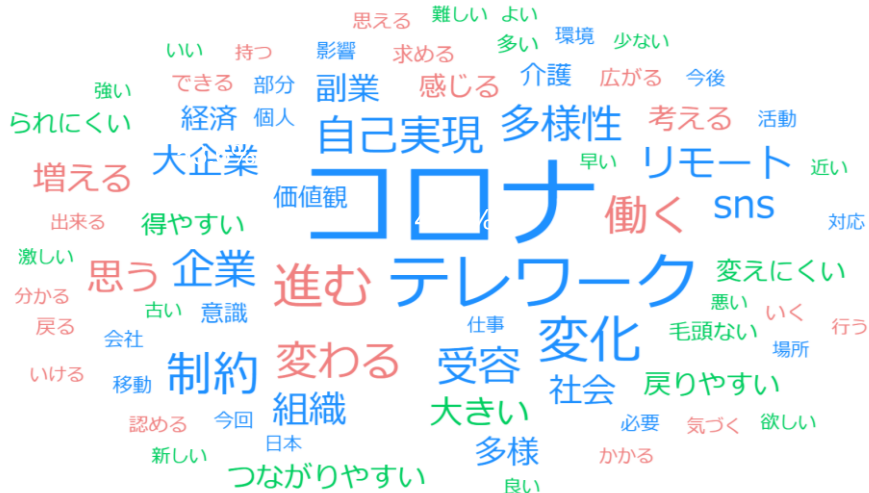




Q15-1. そのようにお考えになる理由を、よろしければ教えてください。(n=201)

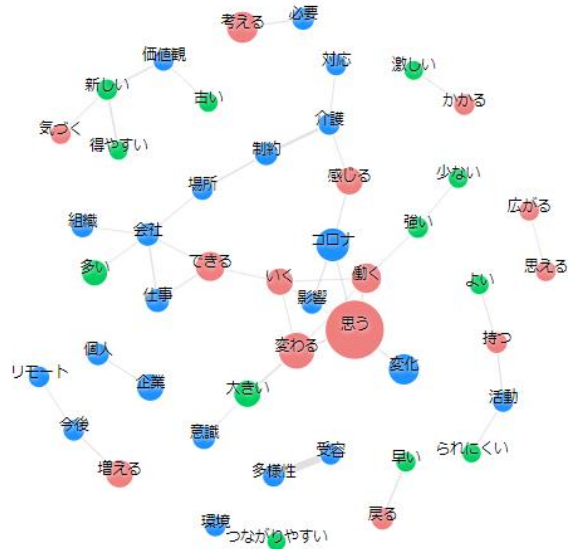
<ワードクラウド> ※自由回答の内容を、ユーザーローカル社テキストマイニングツールを利用して解析。

一般的な文書ではあまり出現しないが、調査対象の文書だけによく出現する単語に重みづけをし、大きく表示する。



<共起キーワード>

文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図。



- もともと課題としてあってコロナがなくても進めなければいけないものであるが、コロナで意識が変わるとは思わない。やればできるといった企業と、やっぱりできないと思った企業の2極化があり、部分的には多様な働き方が進んでいくと思う。(一部抜粋)(30代男性)
- 今まで、能力はあるのに会社に出社し組織の中で働くということが難しいとされる人たちが沢山いた。その人たちが自分たちらしい働き方が問題なくでき、能力が認められる社会になると必然と多様性が認められる社会になると思う。(30代女性)
- テレワークは進むと思うがそれ以外の考え方や心理的障壁が改善されるとは思えない。インターネット内の発言を見ると、テレワークが進むほど思想の分断、先鋭化が進みそうな気がする(40代男性)
- 今まで、頭が固くて変化を拒んでいた人たちが変わらざるを得なくなるので、変化が必要な部分はおしなべて追い風。特に、マイノリティで困っていた人たちにとって、一律に制限がかかった今の状態は非常に追い風。今の環境で成果を出せば、その後につながりやすい。(40代女性)
- 意識の中心が組織（会社や団体や学校）から家族や個人に向くと思います。普段気づかない自分の想いややりたかったことに気づき、常識とか周囲の期待に応じてやってきたそれまでの立場から一歩踏み出す人が増えると思います。それが副業になったり地域活動を始めたり、生涯学習を試したり、地方移住に活路を期待したり。そしてそれぞれの活動で同じ想いを持つ人々とのコミュニティーが増えるように思います。いっぽう会社組織は、社員を維持するよりも必要なスキルを買う方が効率が良いと考え始め、オフィス縮小、正社員から契約社員への重心移動、勤務場所や交通費といった労務要件を減らす方向で合理化すると思います。さらに進むと、税金の安い場所に必要最低限の拠点を作り、生産など労働集約型の機能と企画や営業のように知的生産性を求める機能とを分けて運営し、できるだけ身軽になろうとするように思います。(50代男性)



第 3 部

フリーランスと会社員の比較

■ 【フリーランス：会社員】今の働き方に対する満足度



Q.今の働き方で、下記項目それぞれの満足度はどの程度ですか。それぞれお答えください。
5点:非常に満足している⇔1点:非常に不満

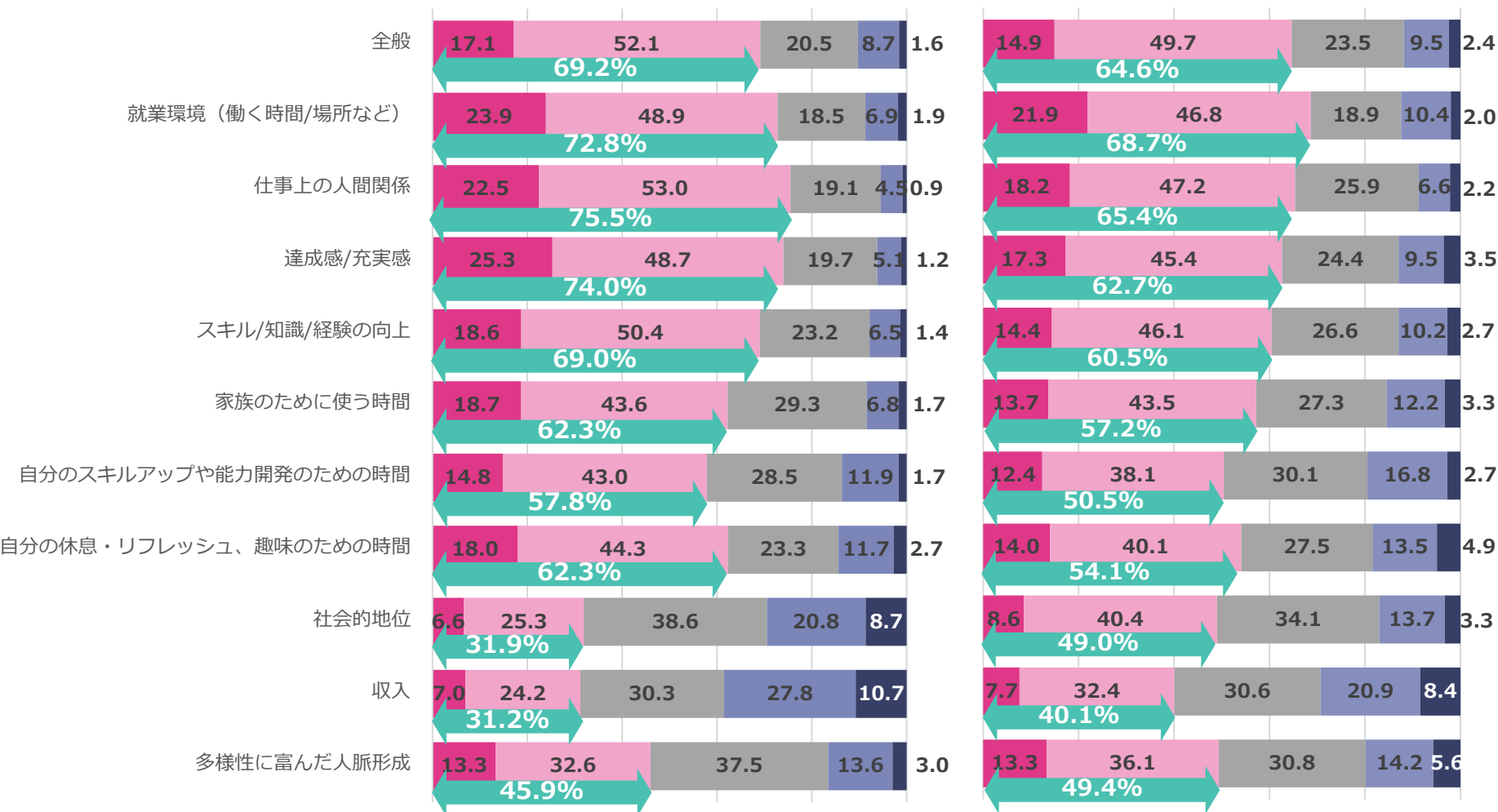
(単位：%)

<フリーランス n=1611>

<会社員 n=549>

■ 5点:非常に満足 ■ 4点:満足 ■ 3点:どちらでもない ■ 2点:不満 ■ 1点:非常に不満

0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 【フリーランス：会社員】 継続・成功に必要なもの

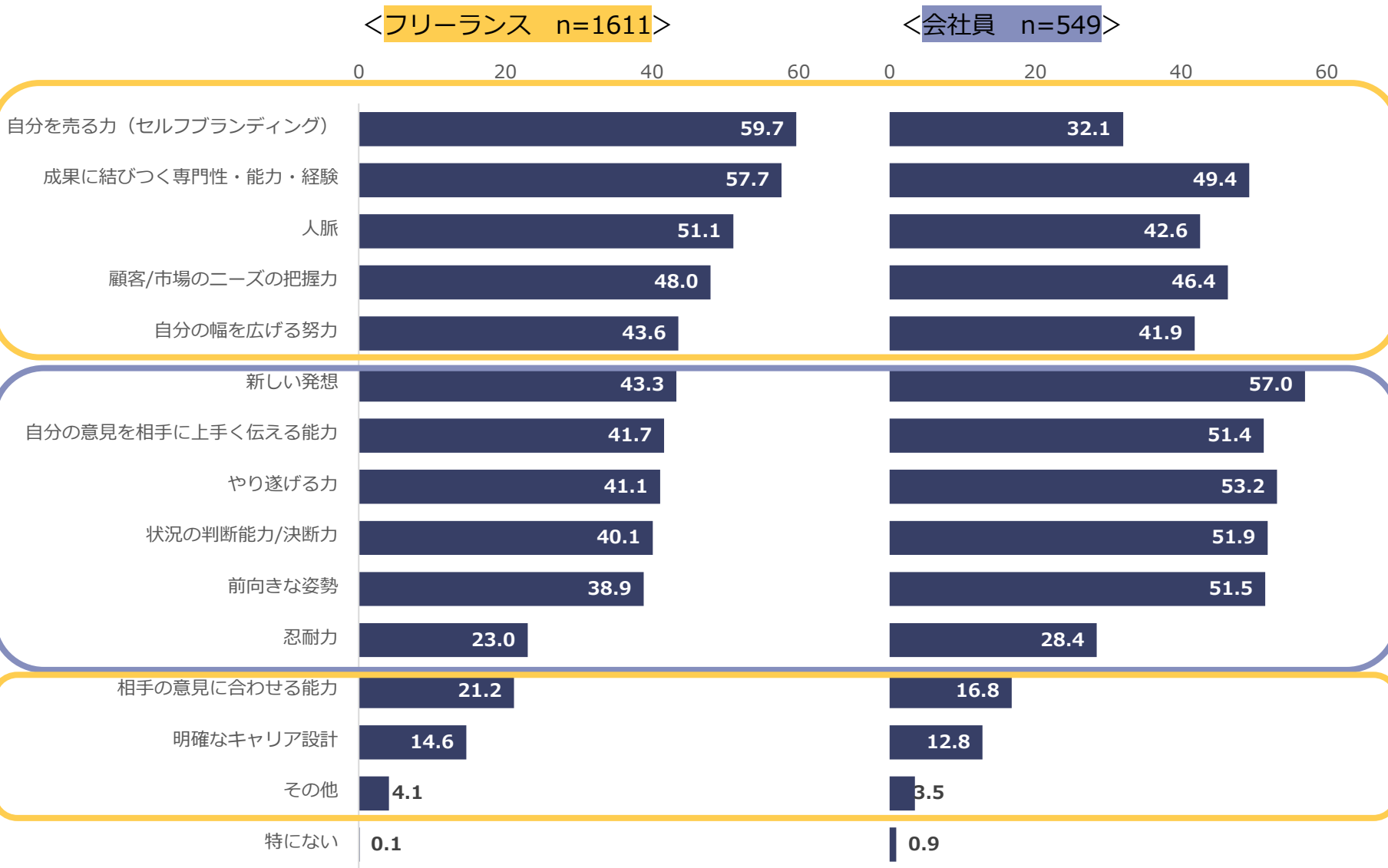


Q.現在の働き方を続ける/成功させる上で重要だと思うものをお知らせください。

(単位：%)

※下線部分はフリーランスパネルが会社員パネルを上回っている項目。

※下線部分(非下線)はフリーランスパネルが会社員パネルを下回っている項目。



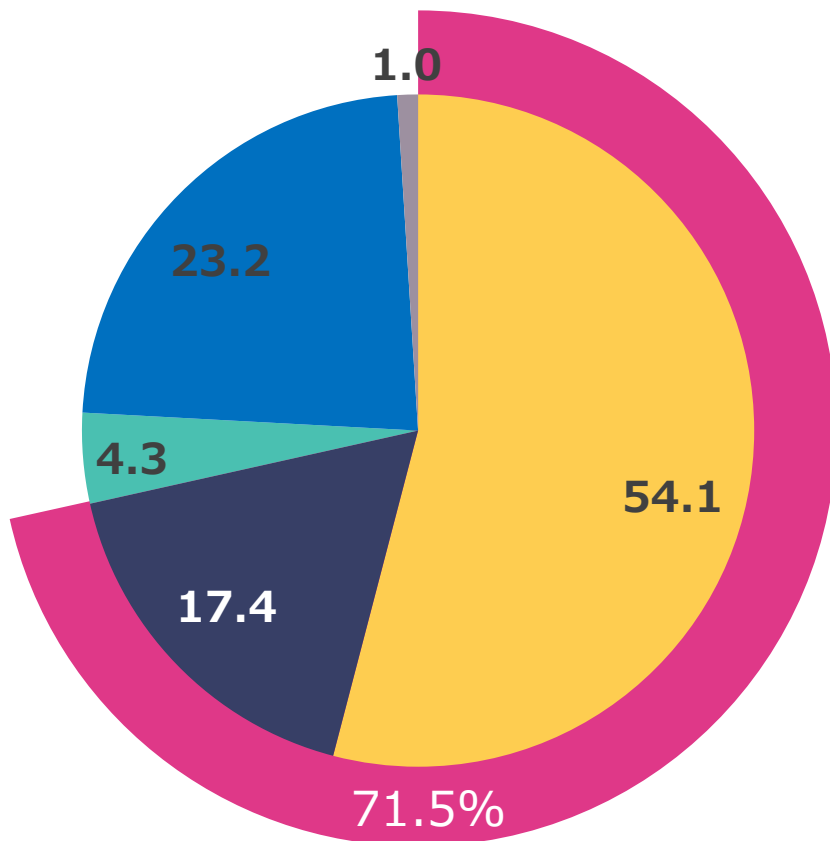


Q.新型コロナウイルス感染拡大により、在宅ワーク（テレワーク）を活用しましたか。

(単位：%)

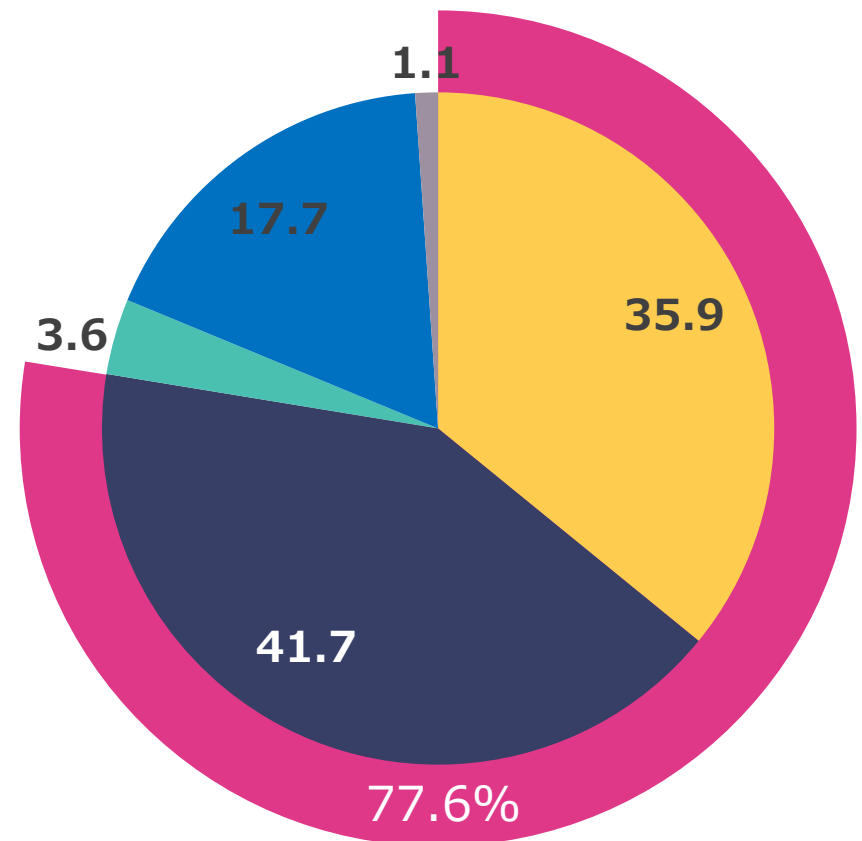
<フリーランス n=1611>

- コロナショック前からテレワークを活用していた 871
- コロナショックを機にテレワークを活用した 281
- コロナショックを機にテレワーク導入の検討を開始した 70
- テレワークを活用していない 373
- わからない/答えたくない 16



<会社員 n=549>

- コロナショック前からテレワークを活用していた 197
- コロナショックを機にテレワークを活用した 229
- コロナショックを機にテレワーク導入の検討を開始した 20
- テレワークを活用していない 97
- わからない/答えたくない 6



■ 【フリーランス：会社員】 コロナ禍での働く時間と収入の増減



(単位：%)

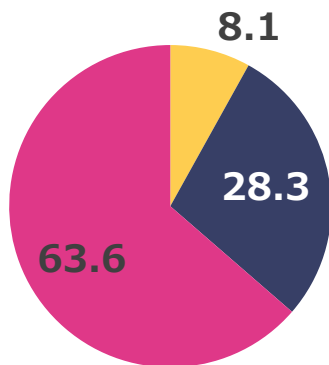
Q.コロナショック前に比べて、働く時間は変わりましたか。

Q.コロナショック前に比べて、収入は変わりましたか。

<フリーランス n=1611>

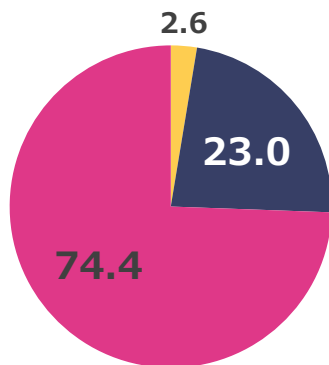
働く時間の変化

■ 増えた 130 ■ 変わらない 456 ■ 減った 1025



収入の変化

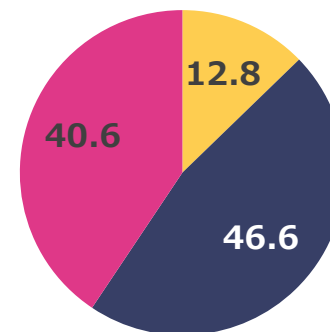
■ 増えた 42 ■ 変わらない 370 ■ 減った 1199



<会社員 n=549>

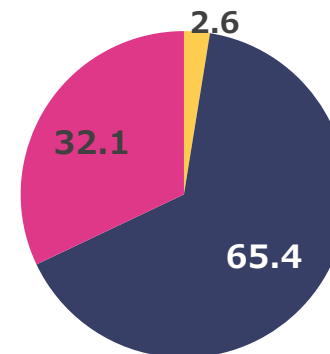
働く時間の変化

■ 増えた 70 ■ 変わらない 256 ■ 減った 223



収入の変化

■ 増えた 14 ■ 変わらない 359 ■ 減った 176

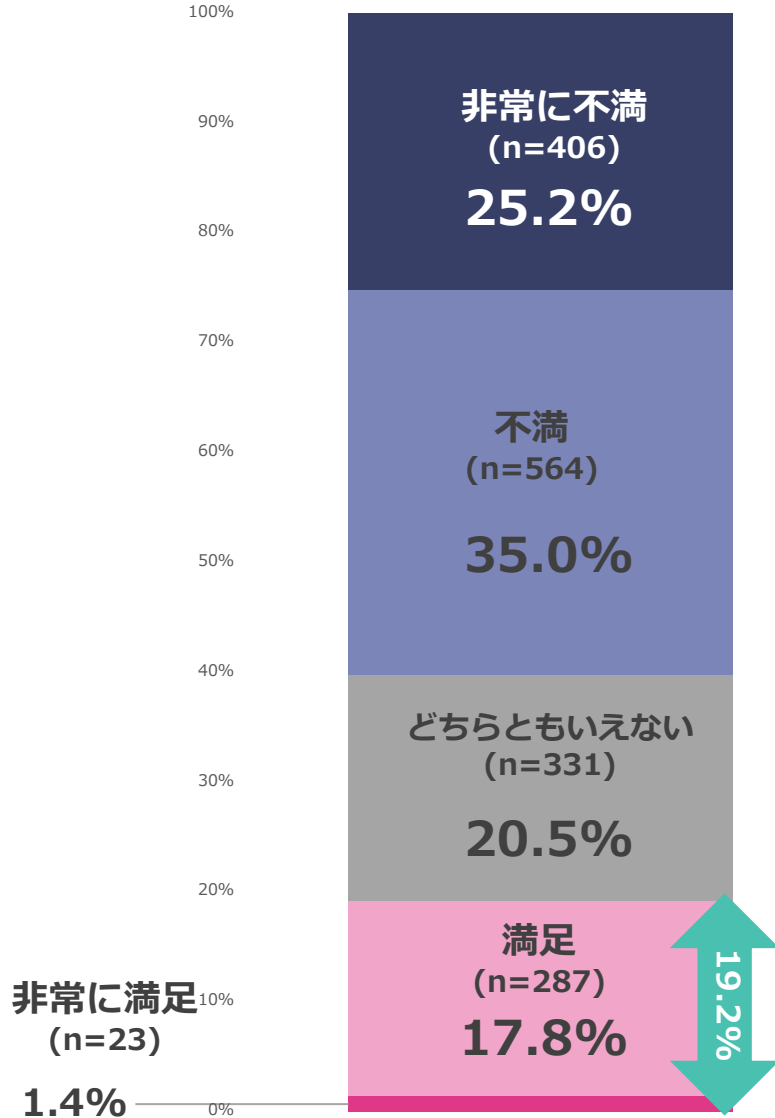


■ 【フリパラ：会社員】 支援策の評価

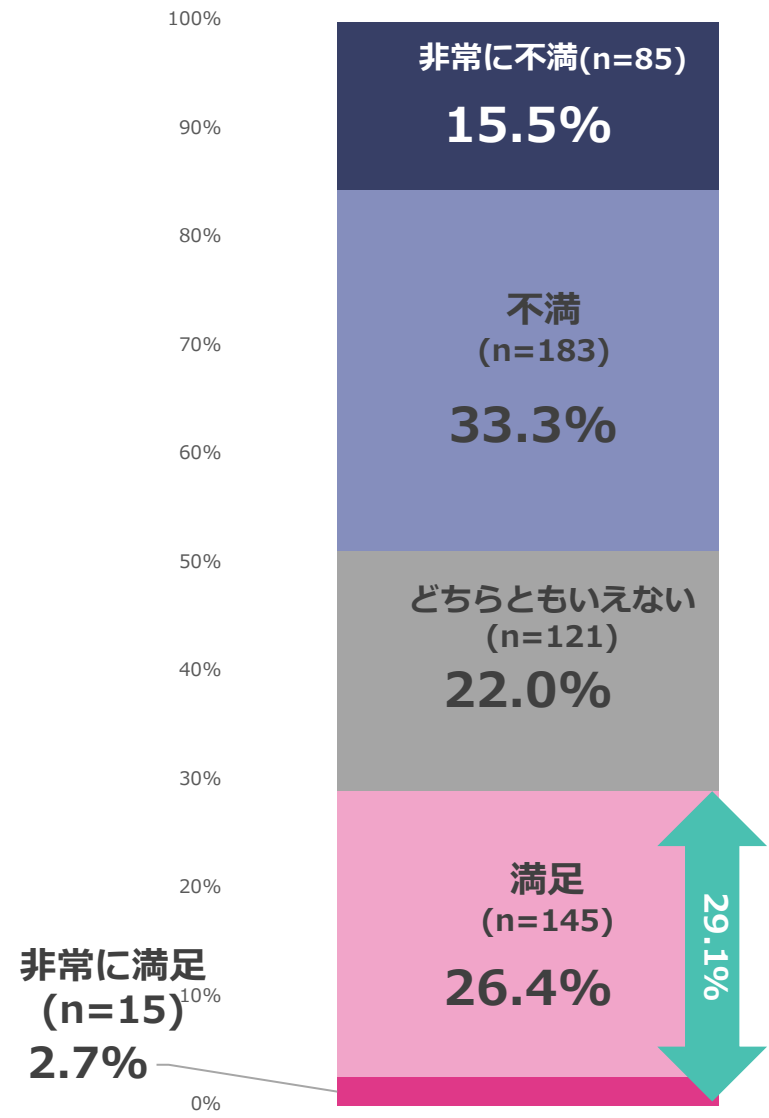


Q.政府による支援策へのあなたの評価を教えてください。

<フリーランス n=1611>



<会社員 n=549>



■ 【フリーランス：会社員】 アフターコロナ社会の働き方予測



Q.アフターコロナの世の中では、働き方はどのような方向に進むと思いますか。

■ とても進むと思う ■ やや進むと思う ■ どちらともいえない ■ どちらかというと思う ■ まったく進まない

